

事務事業及び予算の執行実績

(令和7年度分「一部、令和8年度分を含む」)

静岡県立沼津特別支援学校

目 次

1	事務事業に関すること	
(1)	事務事業の概要（職員に関すること含む）	1
(2)	事務執行の根拠法令調	38
(3)	学校施設の概要	39
(4)	在籍生徒調	42
(5)	入学志願者及び入学者数調	45
(6)	卒業生の動向調	48
(7)	生徒の状況	51
2	予算の総括に関すること	
(1)	保管現金有高調	56
(2)	預金調	57
(3)	郵券等受払調	58
(4)	材料品受払調	59
(5)	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	60
3	補助金等に関すること	
(1)	委託料に関する調	62
(2)	負担金支出調	66
4	工事に関すること	
(1)	建築工事調	68
5	財産に関すること	
(1)	公有財産調	69
(2)	借地借家等調	71
(3)	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	72
(4)	行政財産貸付・使用許可調	73
(5)	主要備品調	74
(6)	生産物受払調	75

事務事業の概要

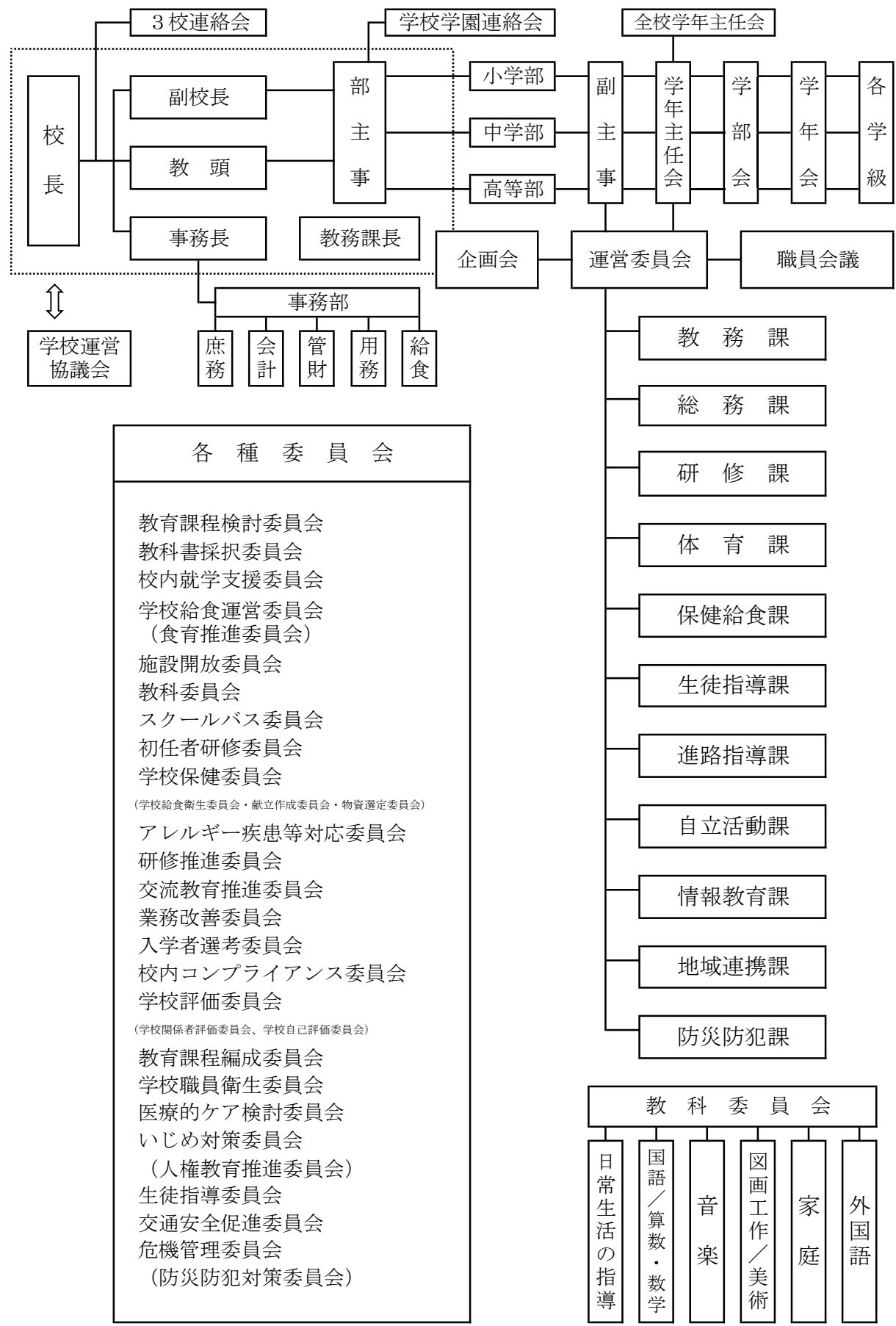
1 概況

(1) 学校の沿革

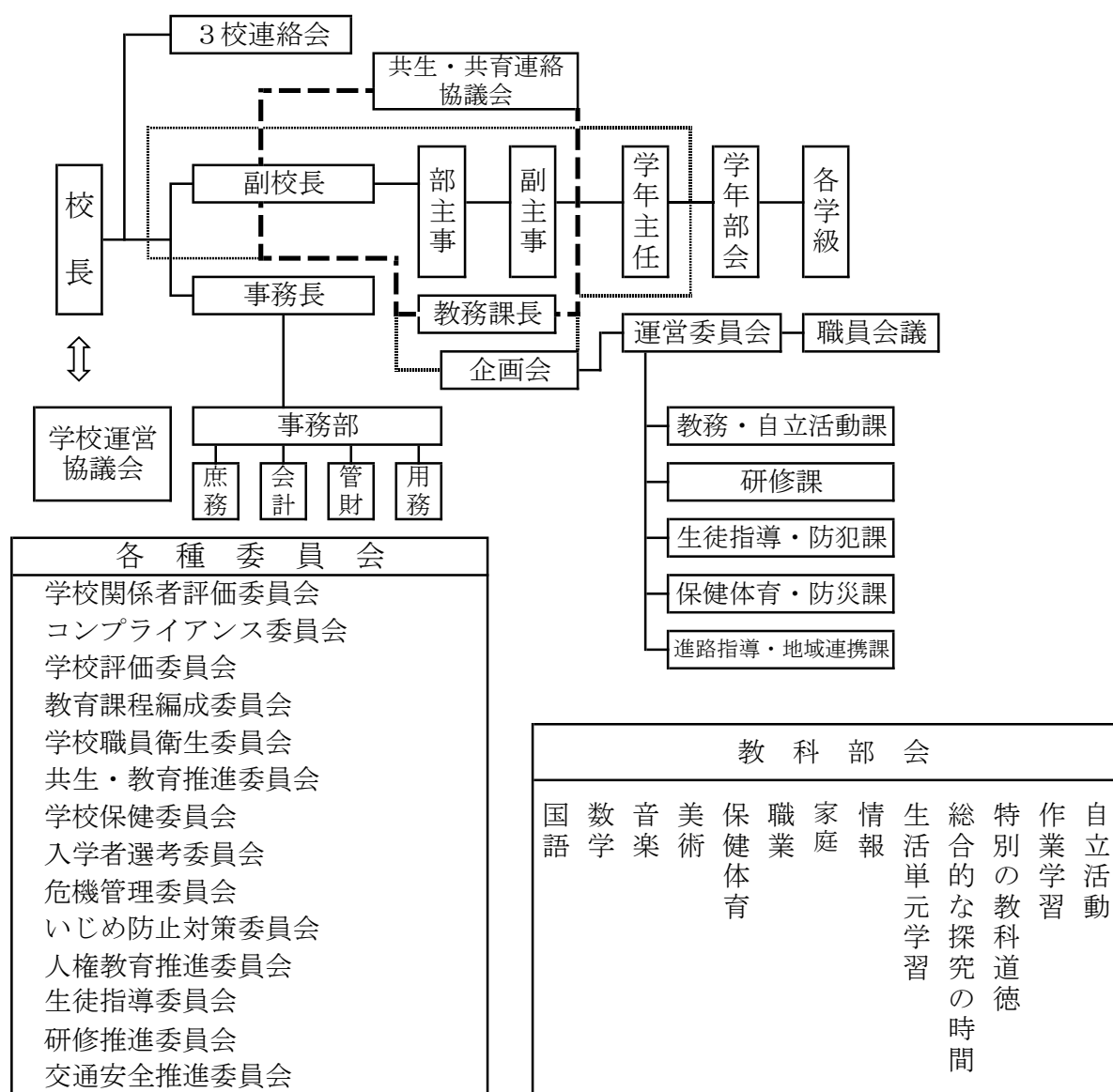
昭和53年 3月20日	静岡県東部地区新設養護学校の設置を2月県議会において議決
昭和53年 4月 1日	新設養護学校設立準備委員発令
昭和53年 8月 4日	第1期建築工事着工
昭和53年11月24日	静岡県立沼津養護学校と校名決定
昭和54年 3月17日	第1期建築工事竣工（管理棟、食堂）
昭和54年 4月10日	開校式、入学式挙 小学部57人、中学部9人、訪問教育部92人入学
昭和55年 3月25日	第2期建築工事竣工（小学部棟）
昭和55年 4月 1日	三島市立坂小学校、錦田中学校見晴分校が静岡県に移管され、 静岡県立沼津養護学校見晴分教室となる。
昭和55年 4月 1日	富士市立大淵第二小学校、大淵中学校特殊学級が静岡県に移管され、静岡 県立沼津養護学校ふじやま分教室となる。
昭和55年 4月 8日	見晴分教室開校式、入学式挙 小学部22人、中学部16人入学
昭和55年 4月 9日	ふじやま分教室開校式、入学式挙 小学部30人、中学部18人入学
昭和56年 3月20日	高等部の設置を2月県議会において議決 第1学年募集定員10人となる。
昭和56年 4月 1日	高等部開設
昭和57年 3月10日	高等部棟建築工事竣工
昭和58年 3月23日	体育館建築用地買収
昭和58年11月19日	校旗制定
昭和59年 2月29日	体育館建築工事竣工
昭和59年 3月10日	高等部第1回卒業式挙
昭和60年 3月15日	高等部棟増築工事竣工
昭和60年 3月28日	プール竣工
平成 2年 3月31日	ふじやま分教室閉校
平成 9年 9月30日	中学部棟耐震工事完成
平成10年 4月 1日	高等部募集定員固定制から変動制となる。
平成10年 9月30日	小学部棟耐震工事完成
平成10年11月30日	給食棟下処理室竣工
平成13年 3月31日	見晴分教室休止となる。
平成15年 3月 1日	見晴分教室廃止となる。
平成15年 3月31日	訪問教育が東部養護学校へ指導変更となる。
平成15年 4月 1日	高等部第1学年に重複学級が認可される。
平成20年 4月 1日	静岡県立沼津特別支援学校と校名変更
平成21年 4月 7日	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校開校式・入学式挙
平成25年 4月 8日	静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校開校式・入学式挙
平成29年 3月15日	木工陶芸室新築他工事竣工
令和 3年 4月 1日	静岡県立伊豆の国特別支援学校新設により通学区が沼津市・清水町・長泉 町となる。

(2)組織図

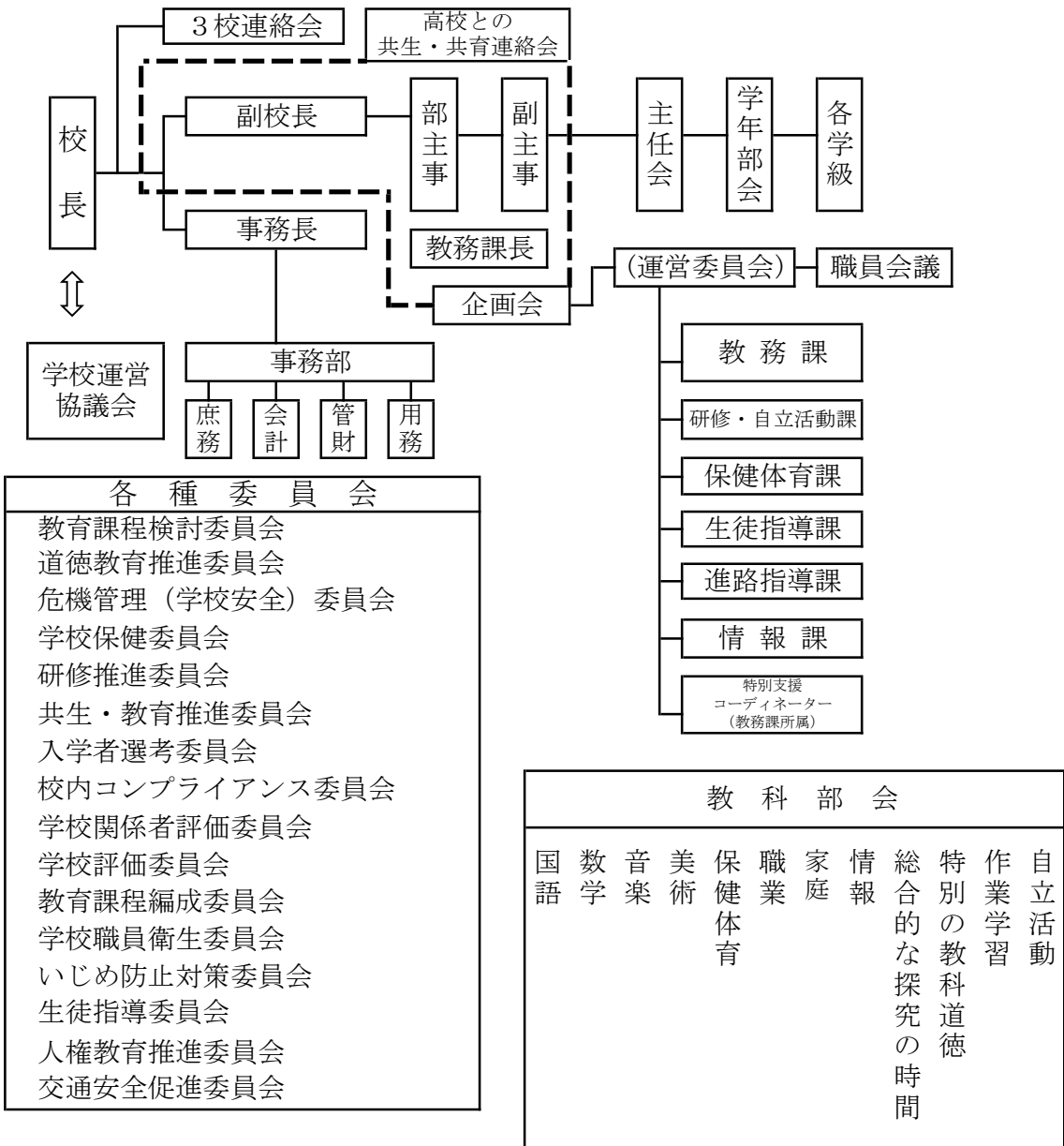
【本校】



【伊豆田方分校】



【愛鷹分校】



2 目指す学校像

＜本校・分校共通＞

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き

～子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する～

- ・学校、保護者、地域の方々と共に、さらに児童生徒同士、児童生徒が自分自身を、育て、成長すること
- ・児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人や社会との関わりが広がること
- ・自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、自信をもって生きる姿、生きる力を高めること

(2) 目標具現化の柱

- ア 人権尊重の理念に基づいた、安全に安心して学習できる学校 (安 全)
- イ 児童生徒のニーズに基づいた、つながりのある指導及び支援ができる学校 (専 門)
- ウ 地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を進める学校 (連 携)
- エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持つ学校 (チー ム)

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等 ＜本校＞

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア 人権尊重の理念に基づいた、児童生徒が安全に安心して学習できる学校 (安 全)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
人権に配慮した指導の徹底	・職員が、相手の人権を尊重した対応を日々心掛けている。 ・保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。	・人権尊重の視点からの細かな気づきや自身の振り返りから、本校職員の人権意識が高まっていると言える。99%の保護者から「できている」との評価をいただいた。	A	・教員からは、課題点に対しては、悪いことやマイナスの意見だけではなく、「～したい」という前向きな意見が多かった。人権教育年間計画や人権の手引きの活用など、方法を工夫し、啓発を継続する。
	・校内が整理整頓されている。	・整理整頓が、児童生徒にとっての分かりやすさやユニバーサルデザインに通じるものであるという認識が根付いてきた。片付けについて、単に「場所がない」ととどまらず、不要物を捨てて有効活用できるスペースがある、という意見が複数みられている。もっと片づけるべきであるという評価が一定数見られている。	A	・校内の整備が必要な箇所を把握し、大型ごみの廃棄について、速やかに廃棄できるように課で対応するなど継続して行う。
命を守る、未然防止と緊急対応の、実践力の向上	・未然防止の観点から点検と対応が常に行われている。	・未然防止の取組について、良い点を具体的に上げ、高い評価となっている。唯一のC評価も注意啓発の内容である。老朽化への不安と安全配慮への更なる要望はみられたが、保護者から一定の評価を得た。	A	・職員が定期点検とそれに基づいた必要な対応ができている。 ・安全点検で指摘された校内の危険物、不要物の共有により再発防止策を検討できた。修繕については、継続して対応する。人数不足の際の行動のシミュレーションや救護室、クールダウン室の表示、搬入物一覧を写真等で掲示する等して充実させる。
	・職員と児童生徒は、発災、緊急時の対応を理解し、行動できる。	・予告なし訓練の成果から、日ごろの訓練による成長が感じられ、訓練の評価の場ともなった。一方、児童の実態に応じた難しさを感じている声が上がっている。また、実践的に、さらに発展させた内	B	・個々に応じた避難方法の想定とそれができるための指導の実施。

		容を望む声も出ている。		
教育的ニーズの的確な把握とそれに応える自立活動の実践	・教員が、児童生徒の自立活動の目標と、今持っている力や得意なことを生かした達成方法を、保護者に丁寧に伝えている。	・保護者アンケートで「そうである」78%、「ややそうである」22%という評価であった。	A	・自立活動の教員研修と内容の検討の必要性があげられていたため、客観的なツールを活用した児童生徒の実態把握や専門家を招聘した自立活動学習会の更なる充実を図りたい。個別の指導計画の書式を見直し、どの場面で自立活動のどの項目をねらって学習するのか、分かりやすくする。
つながりのある支援と指導の充実	・その時期にその授業を行う意義について、職員が語り合い、保護者に伝えている。（お便りも含む）	・「その時期にその学習を行う意義について説明する」ことが教員に定着してきた。 ・保護者アンケートで、「そうである」72%、「ややそうである」28%という評価であった。	A	・カリキュラムマネジメントの観点で年間学習計画の作成ができるように12年間のつながり検討会の充実を図ること、学部を超えた語り合いの時間を確保できるように教育課程を編成することで更に定着させる。
	・授業で、一人一台端末が活用されている。	・7割の教員が活用されているとする一方、活用の仕方について反省する声も上がっている。また、保護者には活用状況が十分に伝わっていない。	B	・活用が進んでいる一方、活用方法の検討とGIGAスクール構想の更なる推進が必要。
	・児童生徒が、遊びの指導、生活単元学習、作業学習を楽しみにし、願いを叶えようと夢中で取り組んでいる。	・教員が、授業づくりに一定の手ごたえを得ており、児童生徒主体の、生活の核となる、夢中な取り組みができている点を自己評価できている。	A	・今年度の成果をもとに、教科等を合わせた指導の授業づくりをさらに充実・発展させることができるよう研修計画を立てる。 ・他分掌の取組を活かしながら計画することで、より効率的に研修を進めていけるようにする。
	・職員が、学んできたことをもとに次の学びを描き取り組んでいる。	・教員が、研修機会が豊富にあることをよい環境であると感じており、主体的に学んでいた。一方、次の学びを描くという点については、課題がいくつか挙げられた。	B	・業務精選の観点から校内研修の参加の仕方について、希望か悉皆か、選択の幅を広げるなどし、継続して研修機会を設けるようにする。
自立と輝きに向けた協働の充実	・職員と保護者が、学校運営協議会からの具体的な支援を理解している。	・職員への周知は行ってきたものの職員や保護者の一定数が分からないという状況である。	B	・学校運営協議会の継続的な情報共有を行うとともに、地域への情報発信を更に行っていきたい。
	・ケース会議後今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。	・「そうである」「ややそうである」職員が93%で、ほぼ達成できたと考えられるが、保護者からは、情報不足の指摘があった。	B	・学部の Co. を中心に、「ケース対応区分表」や日々の先生方とのやりとりから児童生徒の状況把握に努め、早期に介入していく。必要な情報を保護者にも伝えるようにする。

つながりの精選と地域への貢献	・本校の様々な交流や活動が、インクルーシブの推進につながっていることを、職員が説明できる。	・インクルーシブの推進につながっていることを理解しているものの「説明」ということにハードルを感じている職員が多い。	B	・保護者は、交流等の活動がインクルーシブの推進につながっていることを学校から伝えられていると評価している。 ・今年度同様、お便り等を通して保護者に交流活動の様子や意義を発信していく。
	・交流籍交流の活動に、打合せで伝えた児童生徒の「得意な学び方」が生かされている。	・打ち合わせで、「得意な学び方」について伝えることが定着し交流活動にも反映されるようになってきた。一方、生かされているという点においては、まだ不十分である。	B	・今年度同様、担当者説明会で児童生徒の「得意な学び方」を生かした具体的な活動例を紹介したり、相手校との事前打ち合わせの重要性を積極的に呼びかけたりする。
	・地域貢献や地域資源を活用した学習に、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。	・地域の、地域資源を活用した学習のよさを職員が自覚でき、実践が充実してきている。	A	・学習活動が充実し、地域貢献としての自覚も出てきたので、今後は更に本校についての情報発信も積極的に行う必要がある。
やりがいを持てる職場環境の充実	・教職員が研修で学んだ内容をチーム力の維持向上に役立てている。	・アサーティブという言葉が浸透してきた一方「人による」という声も上がっている。	A	・おおむね達成のため、昨年度実施の研修内容の継承が必要。
	・教職員の時間外勤務時間が上限を下回っている。	・周りの先生方の声掛けや定時退勤日の実施で、早く帰ろうとする意識が持ててきている。	B	・業務分担に不公平感を感じている職員が一定数いるため、業務分担の定期的な見直しが必要である。
	・事務室への報告連絡相談が迅速に行われている。	・概ね良好である。	A	・更にコミュニケーションを取り、連携して業務を行っていききたい。
	・職員が可能な範囲での改善がなされたと感じている	・1割弱の職員が達成できていないと感じている。	A	・施設整備と人的環境整備について、県への働きかけも含め、進める必要がある。特に、老朽化とバリアフリー化については、要望書に入れていただくなど、PTAとの協働も積極的に行っていききたい。

(2) 令和7年度 of 取組目標・達成方法・成果目標

ア 人権尊重の理念に基づいた、安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
人権教育年間指導計画の着実な遂行	職員が、人権育成年間指導計画を着実に遂行している。	職員は、毎月の人権テーマを意識しながら児童生徒、職員に対応するとともに、取組について振り返ることができた。	B	毎月、人権テーマを職員室に掲示したり、朝の打合せで確認したりした。チェックシート等を活用しながら、日常的に意識できる方法を検討していく必要がある。
	児童生徒や保護者が「大切にされている」と感じている。	職員は、日々児童生徒に、人権を尊重した対応ができた。	B	一部の職員で児童生徒に対する否定的な言葉掛けが見られ、徹底できなかった。意識が薄かった部分や曖昧な部分を振り返り、人権に関する研修を重ねていく必要がある。

	分かりやすく、居心地が良いように教育環境が整備されている。	職員は教室内の教材や教具、掲示物等の配置を整理し、学習環境を整えることができた。	A	確実な安全点検で教室環境を整えることができた。荷物の落下防止の観点から、高い所に荷物を置くことがないよう呼びかけていく。
命を守る、体制強化と行動力の育成	未然防止の観点から点検と対応が常に行われている。	職員は、けがや事故等の未然防止の観点から、定期的な安全点検や授業準備を実施し、適時対応することができた。	A	毎月の安全点検や授業前の安全確認を行った。改善可能な項目については、事務の施設担当と相談しながら迅速に対応した。けがや事故の未然防止の観点から事故報告書やヒヤリハットは、速やかに共有していく。
	食育の推進と食の安全が確保されている。	職員は、食育の観点（季節・食材・衛生・マナー・感謝・フードロス等）を意識し、日々の指導に取り組むことができた。	A	季節や食材について話題にしたり、手洗いやうがいを徹底したりしながら指導できた。また、異物混入対応マニュアルを見直した。安全で安心な食事指導を継続していく。
	保護者が福祉避難所指定とその在り方について説明を受けている。	職員は、PTA 総会や防災だより等を通じて福祉避難所についての情報を保護者に発信することができた。	B	PTA 総会やお便り等を通じて福祉避難所に関する情報を発信した。福祉避難所に関する進捗状況等については、お便り等では伝わりにくいため、PTA 総会にて全体に直接伝えていく必要がある。
	職員と児童生徒は、緊急時および発令・発災・避難所開設時等の対応を理解し、行動できる。	職員と児童生徒は、計画された訓練に参加し、発災時や緊急時に必要な行動をとることができた。	A	訓練を繰り返すことで落ち着いて安全に避難することができるようになってきた。予告なしの訓練も取り入れながら、より実践的な訓練を行っていく。

イ 児童生徒のニーズに基づいた、つながりのある指導及び支援ができる学校（専門）

教育的ニーズの的確な把握とそれに応える自立活動の実践	職員が、児童生徒の自立活動の目標と、今もっている力や得意なことを生かした達成方法を、保護者に丁寧に伝えている。	職員は、児童生徒の自立活動の目標と、今もっている力や得意なことを生かした手立てを、面談等で保護者に伝えることができた。	A	面談や懇談会等で、年間の目標やつきたい力等について保護者に伝えることができた。教員間では、授業研究や12年間のつながり検討会で得られた内容をもとに、年度はじめや学期末等で研修を重ねていく。
つながりのある支援と指導の充実	12年間のつながりの中で学習の目的・目標について、保護者に伝えている（お便りも含む）。	職員は、授業を行う意義や時期について語り合い、保護者に伝えることができた（お便りも含む）。	A	面談やお便り等で、学習の取組状況等を保護者に伝えることができた。教員間では、カリキュラムマネジメントの観点で年間学習計画の作成ができるように、12年間のつながり検討会、ミニつながり検討会の充実を図っていく。

	学習場面で、一人一台端末が活用されている。	職員は、端末の効果的な使い方について情報交換をしながら授業を行うことができた。	B	端末や機器を使いながら授業ができた。 機器への対応については、教職員の知識や技量に差があるため全体の基礎知識を高めるとともに、個のニーズに対応していく必要がある。
	児童生徒が、遊びの指導、生活単元学習、作業学習を楽しみにし、願いを叶えようと持てる力を存分に発揮して取り組んでいる。	職員は、児童生徒が持っている力や得意なことを生かして授業に取り組むことができた。	B	面談や懇談会等を通じて、授業の様子や学習状況について説明することができた。 教職員の専門性を高めるための学習会を計画するとともに、学んだことを生かしたり検証したりする力を高めていく必要がある。

ウ 地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を進める学校（連 携）

自立と輝きに向けた発信と協働の充実	職員と保護者が、学校運営協議会からの具体的な支援を理解している。	職員は、学校が地域の協力を得ながら交流活動や職場実習等の学習に取り組んでいることを掲示板や懇談会、お便り等を通じて保護者に周知することができた。	A	懇談会での説明や掲示物、おたより、ホームページ等を通じて情報を発信することができた。 保護者が情報に気付きやすい発信方法を検討する必要がある。 また、学校運営協議会については、活動内容等をPTA総会で紹介していく必要がある。
	支援会議後、今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。	学校は、適時支援会議を行い、支援の方針や役割分担について確認しながら対応することができた。	A	適時、支援会議を行うことができた。 関係機関と連絡を取り合い、協力を得ながら、様々なケースに対応していく。
つながりの精選と地域への貢献	本校の様々な交流や活動が、インクルーシブの推進につながっていることを、職員が説明できる。	職員は、インクルーシブの推進につながることを意識して、各種交流活動に取り組むことができた。	B	年間を通じて各種交流に取り組むことができた。 教職員一人ひとりが交流の目的や意義を押さえた上で活動に取り組んでいく必要がある。
	各種交流活動に、打ち合わせで伝えた児童生徒の「得意な学び方」が生かされている。	職員は、交流等の活動で、児童生徒の「得意な学び方」を生かせるように準備や支援ができた。	A	交流前の事前打ち合わせで、本校の子どもたちの障害や得意な学び方について伝えることができた。 事前の準備や打ち合わせを大切にしながら、活動に取り組んでいく。
	地域貢献や地域資源を活用した学習に、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。	職員は、地域貢献や地域資源を活用した学習において、目的や目標を明確にして取り組むことができた。	A	地域の人材や資源を活用した学習に取り組むことができた。 地域にある学校として、児童生徒が学習に取り組んでいる様子を発信したりアピールしたりしていく。

エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持てる学校（チーム）

誇りとやりがい が持てる職場環境 の充実	教職員はチーム力の維持向上に努めている。	職員は、アサーティブな考えをチーム力の維持向上に役立てることができた。	B	「アサーティブ」の捉え方が様々であった。共通理解が必要であるとともに、会議や研修の場で自分の考えを伝え合う時間を設けていく必要がある。
	教職員の時間外勤務時間が上限を下回っている。	職員は、時間外勤務時間の上限を意識しながら勤務することができた。	B	教材研究の時間の確保が不十分であった。会議資料を事前に提示したり、資料の論点に色を付けたりしながら会議の効率化を図っていくとともに、放課後の運用について段階的に見直す必要がある。
	事務室との連絡相談が迅速に行われている。	職員は、計画的に物品等を購入し、適正に予算執行できた。	A	適正な予算執行ができた。年度はじめに、事務室から職員に対して物品請求の手続き方法や会計についての説明をしていく。
	本校の取組の良さが外部に発信され、伝わっている。	学校は、教育活動の様子をホームページやInstagram（試行）で適時発信することができた。	A	ホームページを随時更新し、学校の取組や授業の様子について発信できた。Instagramについては、試行していることをPTA総会で周知していく。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等＜伊豆田方分校＞

(1) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア 人権尊重の理念に基づいた、児童生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
人権に配慮した指導の徹底	・職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。	・人権尊重の視点での振り返りから、生徒同士では、互いの良さを認め合う意識が高まっている。一方で職員は、生徒への肯定的な関わり方について、さらに研修を積む必要性が確認された。	B	・職員が全ての生徒に対して肯定的な意識を持って関わる重要性を確認し、個に応じた寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いた柔軟な関わり方の追求に徹底して取り組む。
	・生徒自身や保護者が人権が尊重されていると感じている。	・人権尊重の視点での振り返りから職員と生徒にそうは思わないという回答が一定数あった。		・職員と生徒共に、挨拶を交わし合う姿が、日常的に見られ相手を尊重する意識は高まった部分はあったが、「さん」付けの励行については今後も徹底できるようにする。
誰もが安心して通える学校	・校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。	・パソコン室や更衣室等の共有スペースの物品整理が進んで安全や機能性が高まったが、継続した整理が必要である。	B	・機密文書を含む共有データの整理については全職員で意識的に取り組むことができている。掲示環境については、より教育効果の上がる掲示計画を検討していく。
	・調整や工夫により、教室や特別教室が有効に活用されている。	・少ない活動スペースの中でも教務課を中心に調整、学部内でも融通し合い有効に活用された。		・現在の使用教室の中での細かい調整を継続しながら有効な活用を進める。一方で、更に機能的な有効活用を進めるために、室内の備品等の整理を継続する。

イ 児童生徒のニーズに基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
生徒との対話を通じた教育的ニーズの把握	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。	・パソコン室や更衣室等の共有スペースの物品整理が進んで安全や機能性が高まったが、継続した整理が必要である。	B	・機密文書を含む共有データの整理については全職員で意識的に取り組むことができている。掲示環境については、より教育効果の上がる掲示計画を検討していく。
	・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	・生徒自身が得意を生かして主体的に活動しているという職員の評価が多く見られたが、生徒の評価では「学校で勉強することが楽しくない」と答える生徒が11%見られた。		・集団の中で自分の得意やよさに目を向けて主体的に授業に取り組む生徒が増えた。その中で教員は、更に、実態差に応じた個への指導・支援について研修を深め、すべての生徒の主体的な姿を引き出していく。

個に応じた適切な進路決定	生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。	全職員は、キャリアパスポートの活用等を通して自己理解が進んだと評価した。生徒の1月の評価では、9月から「学習を通して自分に合った働き方についてイメージできている」と答えた生徒が11%増えている。	B	各学年の実態に応じたキャリアパスポートを活用することで生徒自身が自分の適性について知り将来の生活を考えることにつながる姿が多く見られた。今後3年間のつながりを踏まえた活用を検討していく。
	保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	職員の評価においては保護者の3年間の進路選択の流れや子どもの適性について理解を促す必要性を感じる職員が一定数見られた。		進路選択の進め方や職場実習の意義についての保護者の理解を進める3年間の流れを、職員間で共通理解した上で、保護者に伝え、生徒の適性や思いに沿った進路決定が連携してできるようにしたい。

ウ 地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を進める学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導	職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。	全ての職員において必要に応じて適切な面談や関係者会議を組んで進めることができたという評価であった。	A	各学年で個々の生徒の現状を細かく分析して、必要に応じて学校内及び関係機関と共有し、チームで課題解決に向けて取り組むことができた。さらに、学校内での情報共有の迅速化を図る工夫をする。
	保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。	支援が必要になった場面では、事実確認を迅速かつ的確に行い保護者と共有をすることができた。難しいケースもあったがケース会議は柔軟かつ組織的に実施することができた。		各学年で家庭とのやりとりを丁寧に行い、信頼関係を保つ中で、生徒や家庭の支援に取り組むことができた。各学年に支援が必要な生徒がいるため、保護者と連携した生徒の見届け等の支援を含め、継続して丁寧に対応していく。
生徒の自立と輝きに向けた共生・共育の充実	生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学习に積極的に参加している。	全ての保護者・職員は生徒が主体的に参加できていると評価している。生徒の評価においては97%が「楽しい」と回答している。	A	生徒が共同学習において、田農生と意欲的に学んでいる。関わりが苦手な生徒においても回を重ねるごとに共同で学ぶことに前向きになる姿が見られた。今後も、作業学習や総合的な探究の時間としての確かな学びの成果が出る様に田方農業高校と授業作りをしていく。

	・学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	・夏の研修会を通して、学校運営協議会委員と協働して学校と地域のつながりについて地域に発信できた。	A	・学校運営協議会の委員の方の支援を受けて研修会を開催したことで、在校生や卒業生が地域とつながりをもって生き生きと自分らしく生活するための支援者を増やすきっかけをつくることのできた。
--	---	--	---	--

エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持てる学校 (チーム)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
チームとしてやりがいのある職場	・教職員が、チームとしての成長を実感している。	・チームとして全ての教職員がお互いの考えや思いを十分に伝え合う状況には至っていない。	B	・グループワークで教職員が自分の取り組みについて、お互いに情報交換したり、認め合ったりする機会を効果的に設定する。
	・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	・職員は管理職と相談しながら事務室と連携して業務を進めることができていた。		・職員が各担当する役割の中で事務室とのやりとりを適時に行い、スムーズに連携しながら仕事を進めることができた。

(2) 令和7年度取組目標・達成方法・成果目標

ア 人権尊重の意識に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
人権に配慮した指導の徹底	・全ての職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・生徒自身や保護者が、人権が尊重されていると感じている。	・人権尊重の視点での振り返りから、生徒同士では、互いの良さを認め合う意識が高まっている。 ・人権尊重の視点での振り返りから生徒、保護者、職員にそうは思わないという回答が一定数あった。職員の生徒への関わり方について情動的な指導ではなく、生徒の状態に合わせて理解を深める指導の工夫に課題があることが確認された。	C	・職員が全ての生徒に対して肯定的な意識を持って関わる重要性を確認し、個に応じて寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いた柔軟な関わり方の追求に次年度も徹底して取り組む。 ・職員は、生徒自身が自分の良さや課題に気付き、向き合いながら主体的に活動しようとする姿を引き出す関わり方について、専門性の向上と連動させながら研修に取り組む。
誰もが安心して通える体制整備と安全教育	・校内の情報や物品が、生徒の主体的な行動や気持ちを引き出せるように整理されている。 ・職員・生徒・保護	・校内の物理的な整理は進んだが、各教科に応じて効果的な指導につなげられる教材教具等の整備が不足していることが確認された。	B	・生徒が主体的に学習に取り組めるように、各教科等の年間指導計画を基に教材教具等の整備について検討を重ね整える。 ・生徒はマニュアルに沿っ

	者が危機管理マニュアルに沿った行動をとることができる。	・有事の危機管理マニュアルの十分な活用不安を感じている職員が一定数あった。		た行動への意識は高まっている。それを支援する職員、保護者については、有事に即生かせる危機管理マニュアルの見直しを行う。
--	-----------------------------	---------------------------------------	--	---

イ 深い生徒理解に基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
生徒との対話を通じた教育的ニーズの把握とそれに応じた教育活動の実践	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。 ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	・生徒、職員の振り返りから、生徒自身が得意を生かして主体的に活動しているという評価が多く見られた。 ・職員の振り返りからは、生徒個々の目標設定や指導内容、方法について、生徒自身が自分の頑張るポイントを実感し、向き合いながら目標達成できる指導の必要性が確認できた。	B	・授業の中で、タブレットやグループワークの活用により自分の思いの表出や互いの考えを知る機会を多く設定することで、自分の良さや苦手に気づき自分の課題に前向きに取り組む姿が見られた。 ・職員は、一人一人の良さをみとめながら課題への指導を行う際の目標設定や指導内容、方法について生徒が「少し頑張ればできる」を大切した研修に取り組んでいく。その際は、生徒への肯定的なかかわり方を意識して取り組んでいく。
個に応じた適切な進路決定の実現	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	・全職員が、職業・家庭科でのキャリアパスポートの活用、3年間の進路指導のつながりの工夫等を通して生徒の自己理解が進んだと評価した。 ・保護者の振り返りでは、我が子の進路選択や職場実習について不安を感じながらも、一方で、子どもの実態を受容し認めながら前向きに向き合う回答が多数あった。	A	・生徒の学びや保護者への啓発については、進路決定までの3年間の流れを整理しながら進めたことで将来の働く生活の生徒、保護者の理解が少しずつ深まってきた。 ・今年度整理してきた3年間の進路学習と進路決定までの流れにおける生徒、保護者への指導と支援を、次年度再度工夫を加えながら実践していくことで確かな取り組みにしていく。

ウ 地域と関係機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を目指す学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導	- 職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 - 保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、学校と連携している。	- 職員の振り返りから、回数等の開催方法についての課題はあるが効果的な支援と指導はできたという評価であった。 - 保護者の振り返りから、必要に応じて適切な面談や関係者会議を進めることができたという評価があった。	A	- 各学年で個々の生徒の現状把握や指導の方向性等を分析検討して、必要に応じて学校内及び関係機関と共有しチームで課題解決に向けて取り組むことができた。 - 学校内での情報共有の迅速かつ効果的な方法を工夫して取り組む。
生徒の自立と輝きに向けた共生・共育の充実	- 生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、地域での交流学习に主体的に参加している。 - 学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	- 生徒が主体的に参加することができていると職員 100%、保護者 93%が評価している。更なる充実に向けての意見が寄せられた。 - 各委員の立場を通して、学校と協働した活動に取り組むことができた。	A	- 生徒が共同学習において、田方農業高校の生徒とのつながりの中で自分の目標に向けて主体的に学んでいた。今後も各教科等の授業を共同学習に取り入れる意義を確認し、確かな学びのある授業づくりに取り組む。 - 学校運営協議会委員との協働した取り組みを継続し生徒に合った取り組みにするために職員が学校運営協議会に積極的に参画できるようにする。

エ チームとしてのやりがいに基づいた、効率よく迅速に、業務を遂行できる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
チームとしてやりがいのある職場の実現	- 教職員が、お互いを認め合い、チームとしての成長を実感している。 - 職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	- 全ての職員がチームとしての成長は実感しているという回答であった。 - 職員は管理職と相談しながら事務室と連携して業務を進めることができていた。	B	- 年度当初や学期の節目にグループワークで教職員が自分の取り組みについて、互いに情報交換したり、認め合ったりする機会を効果的に設定する。 - 職員が各担当する役割の中で事務室とのやりとりを適時に行い、連携しながら仕事を進めることができた。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等 <愛鷹分校>

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア 人権尊重、命を守る教育の理念に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
人権に配慮した指導の徹底	・職員が、相手の人権を尊重した対応を日々行っている。 ・保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。 ・生徒が、安心して学校生活を送ることができる。	・生徒の気持ちに寄り添うことを心掛けて対応している。 ・保護者は、生徒の人権を教員が尊重していると感じている。	B	・人権に関するチェックリストの活用や定期的な呼びかけにより、意識向上を図ることができた。 ・尊重する意識はもっているが、個人によって感覚が異なるため、グループワークなどで共有する機会を設定する。
自ら命を守る体制の整備と、実践力の向上	・発災、緊急時に自分の対応を理解し、行動できる。 ・安全を意識した行動をとることができるような指導を行っている。 ・生命（いのち）の安全教育の考え方を知り、行動している。	・教員は訓練時だけでなく、発災時の動きについて考えるようになっている。 ・授業の中で防災について取り組んでいる。	B	・南海トラフ巨大地震注意が出たことを契機に災害への備えや自分の動きについての意識が高まった。 ・個に応じた安全の指導の必要性を感じているが、内容や方法について十分検討できないままになってしまった。

イ 生徒理解と生徒のニーズに基づき、将来を見据えた支援及び指導ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
自己理解を深め、主体的に取り組む学習の充実	・教員が、保護者や生徒と共に将来の姿を考え、自立活動の目標と達成方法を伝えている。 ・生徒の自己理解が深まっている。	・目標設定、達成方法は教員が中心に考えている。 ・他者評価を受けることで自己理解が深まっている。	C	・自立活動の時間の指導を行うことで、生徒の課題を焦点化することができた。 ・アセスメント（実態把握）を充実させ、より生徒に合った目標設定達成方法を考えていく。
将来を見据えた支援と指導の実践	・生徒が自分の力をつけたいと思う授業へ、主体的に取り組んでいる。 ・生徒が、授業でICT機器を活用できている。 ・職員が、積み重ねた学びを基に新たな学びに取り組んでいる。	・作業の授業において、自分たちで活動内容を考えている。 ・ICTを使い相手に伝えることを意識したまとめができていく。	B	・他の人に喜んでほしいという気持ちを持ち、学習に取り組んでいた。 ・教科学習でも主体的に取り組む授業づくりについて、考えていく。 ・職員の専門性を高めるための研修内容を校内でのOJTやOFMを活用する。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携に基づいた、共生社会の実現を目指す学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
生徒の自立と輝きに向けた地域や関係機関との協働の充実	・職員と保護者が学校運営協議会の具体的な支援を理解している。 ・生徒が、ワーク地域に積極的に取り組んでいる。 ・ケース会議後、今後の方針と役割分担が明確になっている。	・職員と保護者が学校運営協議会の具体的な支援を理解している。 ・ワーク地域の系統性を整えたことで、生徒の達成感が高まっている。	B	・職員全体で学校運営協議会を行ったことで、受けたい支援を具体的に考えられるようになった。 ・ケース会議において、職員間の情報共有が十分でないことがあった。方針や役割分担を決めるための組織の活性化を図る。

地域とのつながりの強化	・インクルーシブが、進んでいる場面や行っている内容を職員が説明できる。 ・各交流の成果を、城北高職員や保護者、地域が理解している。	・自分たちの実践の中から、インクルーシブの内容を見つけ出している。 ・地域への発信の場が増えている。	B	・地域での作業販売の場所が広がり、関心をもってもらえるようになった。 ・Instagram、教育委員会Xなどへの発信を行っている。 ・インクルーシブのとらえ方を共通理解して、自分たちの取り組みを確認していく。
-------------	--	---	---	--

エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持てる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
働きがいのある職場環境の充実	・職員が、学年経営や学校行事に積極的に参画している。 ・職員が事務室からの伝達に必ず目を通して、学校運営がスムーズに行われている。	・自分の役割を責任をもって果たしている。 ・職員が互いに声を掛け、確認し合っている。	B	・様々な場面でグループワークを行い、学年以外の職員と話す機会を設定し、普段でも話しかけるようになった。

(2) 令和7年度取組目標・達成方法・成果目標

ア 人権尊重の理念に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
生徒の主体性と人権尊重の理念に基づく教育実践と体制整備	・生徒や保護者が学校は安心して通える場所だと感じている。 ・教員は、互いに人権を尊重する対応が取れていると感じている。	・些細な変化への気づきや傾聴を大切に、生徒の気持ちに寄り添う対応を継続できている。 ・生徒や保護者が安心して過ごせる関係作りができている。	A	・生徒や保護者に対して、丁寧に対応することについての意識を高めることができた。 ・慣れによる形骸化を防ぐため、さらに日常の言葉遣いや同僚間を尊重する態度についても再確認し、心理的安全性の高い職場作りを継続していく。
命を大切にする行動力の育成と体制の強化	・教員・生徒が発災時に自分がとる行動が分かり、行動することができる。 ・生徒が、自分自身を含む周りの人が大切な存在であると感じている。	・防災訓練や安全教育の授業で発災時に自分がどう動くべきかを生徒と一緒に考える機会を設けたことで、訓練時にはスムーズに対応することができた。 ・生徒の所在不明や校外への飛び出し等、速やかに対応し、安全を確保できた。また、マニュアルを適宜改善し、緊急時対応の質を高めるように努めた。	A	・防災訓練等を通じ、教員・生徒が発災時の動きを具体的にイメージし、意識を高めることができた。 ・危機的な状況の際に、生徒がパニックになることを想定する等、より実践的な訓練内容を検討する。 ・危機管理における教員の対応事項は多岐にわたるため、緊急時に即応できるよう、視覚的で簡潔なマニュアルの整備を推進する。

イ 生徒理解とニーズに基づき、将来へつながる支援及び指導ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
ニーズに応じた自立活動の実践	- 生徒が、自分の課題を認識し、達成しようと学習に取り組んでいる。 - 職員は、自分の学びが積み重なったと実感している。	- アセスメントに基づき、自立活動の授業を実践したことで生徒が主体的に取り組むことができた。 - 個別の指導計画の立案の際に、生徒から十分にニーズを把握することが課題となった。	B	- 個別の指導計画に基づき、生徒の課題を焦点化して指導を行うことで、自己理解を深めることができた。 - 自立活動以外の授業では、教科等の目標を達成することが主となり、個々の課題を解決する学習が十分に行えなかった。今後は、生徒のニーズを把握する方法を再検討し、授業の改善を図っていく。また、そのために、本年度から導入したOODAループの研修をさらに深めていくことも必要である。
つながりのある支援と指導の充実	- 保護者が、年間指導計画上の学習の目標と内容の説明を受けている。 - 生徒は、自分の夢をかなえることに近づけると考えて、学習に取り組んでいる。	- 年間の見通しをもって、授業を実践できたが、保護者への説明としては改善の余地がある。 - ICTを活用したことで、教員と生徒の相互理解が深まり、生徒の主体的な学びが引き出せた。	B	- 面談に限らず、学習の取組状況などはインスタグラム等で発信したが、今後は学習の目的や成果なども保護者に十分伝わる方法について検討する。 - 教員が年間指導計画を見直し、各教科（国語、数学、職業等）や合わせた指導（ワーク工房・ワーク地域）等の内容について関連を図り、学校での学びがどのように生徒の夢を実現するのか、授業研究等をとおして検討を重ねていく。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等とのつながりに基づいた、共生社会の実現を目指す学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
自立と輝きに向けた地域や関係機関との共同の充実	- 職員と保護者が学校運営協議会の支援を理解している。 - 取り組みに対する発信が、保護者や地域に伝わっている。	8月に実施した学校運営協議会には保護者が参加し、委員や参加企業と意見交換を図ることをとおし、理解を深めることができた。 - インスタグラム等を活用し、日々の学習の様子を積極的に発信したことで、保護者や地域の関心が高まった。	A	- 学校運営協議会に参加した保護者からは好意的な意見が多く寄せられたが、まだ一部では理解が十分でないという意見もあるので、引き続き情報発信に努める。 - インスタグラムでの発信頻度を高めたことで、学習の様子を可視化し、保護者や地域の理解を深めることができた。また学校だよりを発行し、ワーク地域先を始め、生徒の出身中学校等にも配布し、学校の紹介に努めた。
地域とつながりのある教育実践や地域への貢献	生徒が、地域とのつながりや貢献を意識した活動を行っていると感じている。	沼津城北高校との共生共育では、教員間で意思疎通を図り、交流場面の	A	体育や家庭科の授業を始め、生徒会や部活動等での新たな交流の取組を複数実施できた。今後は、

	ている。 ・学年を超えた交流や授業の取り組みができています。 ・共同学習の中で、高校の生徒と分校の生徒が、共に関わり合いが持っていると感じている。	設定を工夫することができた。 ・作業学習を縦割りに変更したことで、学年を超えた生徒同士の関わりが深まっている。		単なる交流に留まらず、授業交流の質的な向上や生徒同士が主体的に関われる場面の意図的な設定について、城北高校と連携して検討していく。 ・3年間を見通した校外学習の在り方を検討し、生徒が系統的に地域とのつながりを意識できるように学習を計画していく。また本校の特色であるワーク地域のこれまでの成果を整理し、地域に発信したり、生徒のニーズに合わせて見直しをしたりしていく。
--	---	--	--	---

エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持てる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
やりがいを持てる職場環境の工夫	・教員は、学年・分掌で協働しながら自分の担当を責任もって行っている。 ・教員が同僚と一緒に学校を作り上げていると感じている。	・Teamsや掲示板機能等により、ペーパーレス化及び会議の精選と情報共有の迅速化を図った。 ・定時退勤日の実施や業務分担の見直しを実施した。まだ一部の教員によって仕事が偏るのに引き続き平準化に努める。	B	・ICTの有効活用により連絡事項のデジタル化が進み、会議時間の削減や情報共有の迅速化を図ることができた。 ・職員の人数が少ないため、1人が2つの分掌を担当したことで滞りなく業務を進めることができた。しかし、時期によって、業務が一部に集中するため、2つの分掌の組み合わせ方や年間を見通した役割分担を見直し、負担感軽減に努める。

4 監査対象期間における特色ある取組 <本校>

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	「学年を超えた集団での活動」(小学部) ・小学部集会(複学年での活動) 「1年生となかよくなる会」 「6年生ありがとうの会」(全学年) 「ペア学年集会」 (1・6年、2・5年、3・4年のペアでそれぞれ年間2回) ・クラブ活動(4・5・6年の縦割りグループによる活動) クラブ種類: 散歩、スポーツ、音楽・ダンス、図工、レクリエーション、読書・読み聞かせ 「地域を活用した学習」 ・種まき教室(4年) ・さつまいも掘り交流(1・2・3年) ・地域交流(全学年)	・異年齢での活動で、自分の役割を果たす、人の役に立つ、友達に喜んでもらう、といった経験を積むことができた。 ・普段とは違う集団とともに活動することで、集団行動の約束を守ることができた、経験のある児童が率先して活動し、活躍の場ができた、余暇を広げることができた、といった成果があった。 ・『種まき教室』では、JAふじ伊豆の方を講師に招き、冬野菜の種まきを行った。JAの方から種まき方法の説明を聞いたり、プランターへの土入れや種まきを一緒に行ったりすることで、より活動に興味をもち、野菜作りへの知識を得たり地域の方との関わりを深めたりすることができた。 ・さつまいも掘り交流は、当日雨天であったため活動内容を変更した。1～3年生に1～2名ずつの地域の方に入ってもらい、授業や休み時間を一緒に過ごして交流を深めた。いつもとは違う地域の方との関わりにより、人との関わりの幅を広げたり、より楽しんで学習や活動に取り組んだりする姿が見られた。 ・地域交流は、本校小学部の伝統として、長年取り組んでいる活動である。今年度は、荒天のため急遽中止となってしまったが、高学年の児童が参加予定だった方に手紙やメッセージを書き、一人一人に送付して間接交流を行った。「いっしょにあそびたかったよ。」「らいねんきてね。」等の言葉を伝えることができた。この交流は本校児童が地域の方との関わりから刺激をもらうだけでなく、双方にとって理解を深められるとてもよい機会である。より本校に通う児童についての理解啓発を進め、共生社会実現を推し進めていけるよう、今後も継続して取り組んでいきたい。

「交流及び共同学習」（小学部） ・学校間交流（年2回） ・交流籍校交流（希望者）	・沼津市立原東小学校との学校間交流は、小学部の6年間で継続して実施している。6年間の見通しの中で児童同士の関わりや活動内容が段階的に積み上げられるよう、各学年の押さえを明らかにして取り組んでいる。今年度は、お互いの学校での交流を各学年2回行い、それぞれ友達と関りを持つことができた。毎年交流を行うことで児童同士がお互いの個性やそれぞれの存在の大切さを感じる交流となっている。来年度も各学年で年2回の実施を予定している。 ・交流籍校交流は、年々希望者が増えている。7年度は1人1～3回、相手校と日程を調整し行った。児童も保護者も教員も実施することの良さを感じており、交流を通して、関りを深めることに加え、本校児童の得意な学び方や有効な支援方法を広く周囲に発信することができた。本校や本校に通う児童に関する理解啓発を進め、それぞれの児童の居住地域においても共生社会実現に向けた足掛かりとなるようにしていきたい。
保護者学習会 ・先輩保護者の話を聞く会（小・中学部） ・保護者学習会②（小学部）	・保護者学習会では、先輩保護者から小・中・高等部の違いや高等部卒業までの保護者の思いを直接聞く『先輩保護者の話を聞く会』と小グループに分かれて雑談を行う『保護者学習会②』を行った。『先輩保護者の話を聞く会』では、本校卒業生の保護者3名から、今までの子育てに関する様々な話や、進路決定に向けての流れやアドバイスなどの話を聞き、これからの毎日に対して前向きになれる力を得ることができた。『保護者学習会②』では、家庭で困っていることや休日の過ごし方等、様々な情報交換を行うことができた。明日からの生活に関わるヒントを得られたり、同じ悩みを共有することで明日への活力を得られたりすることができた。
「地域を活用した学習」（中学部） ・愛鷹広域公園の花壇作り（年3回） ・原地区センターの花壇作り（年2回） ・福祉施設への空き缶の搬入（エコ美化委員会）（年1回）	・園芸班の生徒が愛鷹公園や原地区センターの花壇作りを行った。作業学習で身に付けた技能を地域のためにいかし、地域の方に感謝されたことで、大きな達成感と作業への意欲を高めることができた。 ・委員会活動で潰した空き缶を、近くの福祉事業所に納品した。直接手渡し、お礼を言われることで、生徒の自己有用感につながった。
「交流」（中学部） ・保育園交流（年2回） ・学校間交流（年2回）	・1回目は本校に園児を招き、ダンス、ゲーム、プレゼント贈呈を行った。2回目は保育園に出向き、ボール運びゲームを行った。園児に優しく接する経験や楽しんでもらえたことが生徒たちの喜びにつながった。 ・今沢中学校の1年生と交流会を行った。1回目は本校で、台風の目を実施した。交流タイムでは、自己紹介カードを使って、好きなものやことを紹介し合った。2回目は感染症流行のため中止になった。紙工班で作ったメッセージカードを送ったり、作業の様子を紹介する動画を見てもらったりした。互いを知る機会となった。

「作業学習」(高等部) ・製品開発の工夫と売り上げ意識の向上	・授業を単元化することで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。個に応じた活動を設定しながら、製品アンケートを実施して、更なる質の向上や新製品の開発、売れ筋商品の分析等に取り組んでいる。
「地域で生きる作業学習」(高等部) ・バザーでの作業製品販売 ・協力店舗への納品 ・地域を意識した活動の創造	・協力店舗(洋菓子店、茶屋、喫茶店)への納品、地域の方に向けた野菜の販売、近隣の商業施設での販売を行った。また、令和7年度は、原地区のグルメフェアに、銀行・地域の中学校・洋菓子店とコラボレーションした商品の販売も実施した。納品や販売経験を重ねることで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。 ・地域のスーパーに使用済みの牛乳パックを納品しエコ活動に取り組んでいる作業班や、原団地内施設の清掃に取り組んでいる作業班もある。
「生徒指導」(高等部) ・登下校時の指導 登下校時の指導を定期的の実施し、安全教育の充実を図った。 ・情報モラル指導 携帯電話の使用時間、インターネットやSNSの使用方法の指導を行った。 ・消費者出前講座(全学年)	・生徒の実態が様々で、電車・バス等の乗車マナーでの課題があり、多様化している。今後も学期始めや年度途中でのマナー指導、乗車指導、災害時の対応学習等を継続していく必要がある。 ・携帯電話を持つ生徒の増加に伴い、インターネット、SNSの利用も増えている。SNSの利用について課題があり、トラブルに巻き込まれることも考えられ、生徒が情報モラルについて学び、節度ある利用ができるよう、外部講師を呼んで授業を行った。引き続き指導を行っていく必要がある。 ・成年年齢の引き下げに伴い、消費者被害から身を守るため、契約や金融、若者に多い消費者トラブルとその対処法などを専門知識を持つ講師から3年間段階的に学んでいる。高校生の消費者被害の増加は懸念されており、今後も継続的に実施していきたい。
「心の相談室 ポストの設置」(高等部)	・保健室前にポストを設置し、生徒が悩みを打ち明けやすい環境作りに努めた。今後も、障害認知を深め、組織として生徒指導に対応できるように計画的に実施していきたい。
「交流及び共同学習」(高等部) ・近隣高等学校 高1・高3 年1回 ・保育園児との交流 高2 年2回	・高等部1年生は飛龍高校と部活動交流を行った。高等部3年生は、沼津工業高校との交流を計画していたが、実施直前で感染症流行の為、令和7年度の交流は中止となった。 ・高等部2年生はあしたか保育園の園児と交流を行った。会の計画、準備、運営を生徒が行っている。1回目は保育園に行き、2回目は園児を本校に招いている。
「進路指導」(高等部) 高等部の進路指導で生徒の希望に沿った進路指導を行った。また、保護者への啓発活動の充実を図った。 ・高1 施設見学 職場体験(2日間) ・高2 入所施設見学 職場実習(年2回) ・高3 ハローワーク見学 職場実習(年2回) ・全学年 ビジネスマナー講座 ・保護者向け進路懇談会 各学年2回	・高等部では本人の希望に沿った進路実現100%を目標として進路指導を行っている。 ・就労希望者、福祉事業所利用希望者共に、実習を重ねる中で、ほぼ希望に沿った進路に進むことができた。福祉事業所(特に生活介護事業)の定員の関係や生徒の家庭環境や特性(強度行動障害、てんかん、他害など)で、進路決定が難航するケースがあるため、市町福祉担当課や福祉事業所との連携を重視している。

4 監査対象期間における特色ある取組 <伊豆田方分校>

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	・地域とのつながりを深め、地域を活動場所としての作業学習の実践	・清掃、園芸、木工、陶芸の4種の作業班で地域との関わりを意識した取組を展開した。 ・清掃班では、地域の公共施設や函南小学校、三島南高等学校での清掃活動を実施した。園芸班では、函南町役場や近隣の道の駅等での花壇整備を実施した。木工班、陶芸班では、自主製作した木工製品や陶芸製品を道の駅等へ納品した。これらの実践は、社会自立に必要な力を高めるとともに、自分たちの役割をやり遂げ、活動を喜んでもらうことで生徒の自信となった。
	・お互いを認め合い、授業の実際を体験し合う田方農業高校との行事、授業交流、生徒会活動の充実	・交流開始前に、本校教員が田方農業の生徒向けに障害理解のガイダンスを行うことで、正しい知識の理解が促され、生徒同士の良い関わりにつながった。 ・行事交流（対面式、体育祭、田農祭における交流等）8回、田農ライフデザイン科セラピーコースとの共同授業12回、他学科との交流授業10回、3年生との体育での授業4回等、年間で34回の交流を実施した。本校生徒が積極的に関わり、田方農業の生徒に教える経験を通して、自己肯定感や自信を高めるとともに、互いを理解することに繋がっている。
	・田方圏域におけるセンター的役割の取組	・年度初めに、学区内の町役場や市役所を訪問し、教育委員会、福祉課を通して、教育相談等について周知した。小学校2件、中学校3件、高等学校1件の教育相談があり、内容はいずれも就学進路関係であった。地域の特別支援教育のセンター的機能を果たしている。
	・地域の外部講師を招いた専門的な知識や社会生活に生きる知識を学ぶ授業や講座の実施	・サッカー指導、陶芸指導の授業支援や、ビジネスマナー講座、盆景作成等を実施し、専門的な知識や技術を実践・伝達していただいたことで、生徒の技術向上等に繋がっている。
	・職場実習、進路指導の充実	・職場開拓員と連携を密にしながら生徒一人一人の特性や希望に応じた実習先の選択を行っている。職場実習終了後には学年ごと丁寧な振り返りを実施したり、上級生の報告会や座談会に下級生が参加して成果と課題を共有したりすることで、3年間を通した職場実習を柱にした取り組みに繋がっている。 ・1年生は、1人2日間程度の短期実習を実施。2年生、3年生は10日間程度の実習を2回実施した。 ・PTA事業との共催による進路に関する保護者向けの学習会を2回実施した。卒業生の保護者や相談支援事業の方を講師で招き、在学中の進路決定に至るまでの経緯、卒業後の生活についての話や手をつなぐ育成会の方から障害者年金について話を聞くことで、今後の進路選択や卒業後の生活についてのイメージを深めることに繋がった。 ・教員を対象としただけに事業見学を実施し、生徒の卒業後の姿をより深く考え、日頃の指導に生かすことができた。

4 監査対象期間における特色ある取組 <愛鷹分校>

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	共生・共育の推進と、生徒が経験を広め社会性の育成を図り、社会参加するための学習の設定 <沼津城北高等学校との交流> ・新入生オリエンテーションでの学校紹介 ・行事・講座への参加、高校の教員による出前授業 ・授業や部活動における交流 <地域交流> ・2年生と高齢者施設での交流	・併設する県立沼津城北高校と文化祭、体育祭を行った。両校の生徒会や係が協力して、共通の目的意識をもって取り組むことができた。また、新入生オリエンテーションにて分校の紹介や障害についてなど理解啓発に努めた。沼津城北高校教員による出前授業では、各学年異なる理科分野での体験学習を実施し、生徒の興味関心を引き出した。体育の授業における共同学習や部活動における交流は互いを理解し、親しくなる機会となった。 ・2年生と高齢者施設での交流では、施設内の清掃やイベントをととして交流を図った。
	地域とのつながりを大切にした作業学習の実践 ・布工房（縫製作業） ・緑工房（農作業） ・ワーク地域（地域事業所での学習）	・作業学習では、生徒が近隣の施設で直接販売する機会を設定することで、お客様の要望や感想を実際に聞くことができた。お客様とのやり取りから、生徒が製品改良や新製品の開発に自ら取り組む機会となった。また、週1回のワーク地域では、地域の事業所と連携し、実際の現場で学習を積み重ねた。様々な職種や仕事内容を実践することで、自己理解や課題解決力、協働する力等が育まれた。
	学校運営協議会と地域との連携 ・地域の企業と保護者、教員によるワーク地域（作業学習）をととした意見交換会	・学校運営協議会主導にて、ワーク地域（作業学習）で毎週生徒が学習を行っている企業の方と保護者、教員とで意見交換を行った。実際に企業の方の話を聞くことで、将来に向け、学校や家庭で取り組むこと等を具体的に考え、実践に結び付ける機会となった。
	生徒が主体的に取り組む学習活動 ・ドリームプロジェクト	・ドリームプロジェクトを活用し、自分たちの願いを形にする活動に取り組んだ。地域の飲食店に協力を仰ぎ、地域の特産物を使用したラップラーメンを2種類開発した。生徒にとって自分たちのアイディアと様々な方の協力で夢を叶えていく経験は有意義であり、主体的な学びにつながった。
	3年間の積み重ねを大切にした作業学習の実践と、CDF（キャリアデザインファイル）の作成	・学部全体で作業学習に取り組む中で、各学年のねらいを明確（1年：基礎基本的な働く力の育成、2年：経験をもとに生徒同士コミュニケーションをとりながら進める、3年生徒同士で協力して作業の運営をする）にすることで、生徒自身が段階に応じた目標設定ができ、生徒が主体的に取り組む中で自己評価を進められるようになった。また、作業日誌とは別にCDFを作成し、自己の成長や学びの積み重ねを記録することで進路に向けた自己選択や決定につながっている。
	職場実習、進路指導の充実 ・就労促進支援員や関係機関との連携	・就労促進支援員と連携を密にして、生徒の希望や特性に応じた進路先や職場実習先について、本人・保護者へ提案している。また、進路希望の多様化に伴い、福祉事業所とのつながりを増やし、生徒の希望に応えることができた。職場実習をととして、保護者と教員が積極的にかかわり、働く生活に向けて生徒への適切な支援を考えることができた。

5 教職員について

(1) 異動状況 【本校】

区分	本務職員							
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員
転出者		△ 1			△ 14			△ 2
退職者	△ 1				△ 2			△ 2
転入者					15		1	1
新任者	1	1			4			
差引増減	0	0	0	0	3	0	1	△ 1

区分	臨時・非常勤職員					合計 A+B
	教諭（任）	教諭（臨）	栄養士（臨）	会計年度任用職員	計B	
転出者			△ 1		△ 1	△ 18
退職者		△ 5		△ 4	△ 9	△ 11
転入者					0	17
新任者	1				1	6
差引増減	1	△ 5	△ 1	△ 4	△ 9	△ 6

(1) 異動状況 【伊豆田方分校】

区分	本務職員							
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員
転出者		△ 1			△ 2			△ 3
退職者					△ 1			△ 1
転入者					3			3
新任者		1						1
差引増減	0	0	0	0	0	0	0	0

区分	臨時・非常勤職員					合計 A+B
	教諭（任）	教諭（臨）	栄養士	会計年度任用職員	計B	
転出者	△ 1				△ 1	△ 4
退職者					0	△ 1
転入者					0	3
新任者					0	1
差引増減	△ 1	0	0	0	△ 1	△ 1

(1) 異動状況 【愛鷹分校】

区分	本務職員							
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員
転出者		△ 1			△ 2	△ 1		△ 4
退職者								0
転入者					2	1		3
新任者			1					1
差引増減	0	△ 1	1	0	0	0	0	0

区分	臨時・非常勤職員					合計 A+B
	教諭（任）	教諭（臨）	栄養士	会計年度任用職員	計B	
転出者					0	△ 4
退職者		△ 1			△ 1	△ 1
転入者					0	3
新任者	1	1			2	3
差引増減	1	0	0	0	1	1

5 教職員について

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

【本校】

本務職員								
校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	計A
1	1	1	1	97	2	1	2	106

臨時・非常勤職員				合計
教諭（任）	教諭（臨）	会計年度任用職員	計	A + B
10	6	12	28	134

ア 職員の配置状況

【伊豆田方分校】

本務職員								
校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	計A
	1			16	1		1	19

臨時・非常勤職員				合計
教諭（任）	教諭（臨）	会計年度任用職員	計	A + B
	1	1	2	21

ア 職員の配置状況

【愛鷹分校】

本務職員								
校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	計A
		1		17	1		1	20

臨時・非常勤職員				合計
教諭（任）	教諭（臨）	会計年度任用職員	計	A + B
2		1	3	23

イ 職員の年齢

【本校】 (令和8年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	12	
30 歳以上 40 歳未満	41	
40 歳以上 50 歳未満	28	
50 歳以上 56 歳未満	14	
56 歳以上 61 歳未満	5	
61 歳以上	6	再任用3人
計	106	平均年齢 41.2 歳

イ 職員の年齢

【伊豆田方分校】 (令和8年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	0	
30 歳以上 40 歳未満	7	
40 歳以上 50 歳未満	9	
50 歳以上 56 歳未満	1	
56 歳以上 61 歳未満	1	
61 歳以上	1	
計	19	平均年齢 43.9 歳

イ 職員の年齢

【愛鷹分校】 (令和8年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	4	
30 歳以上 40 歳未満	6	
40 歳以上 50 歳未満	6	
50 歳以上 56 歳未満	2	
56 歳以上 61 歳未満	2	
61 歳以上	0	
計	20	平均年齢 41.0 歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

	令和7年度	令和8年度
取組と成果及び課題	・健康診断については全員が受診し、再検査を指示された者も全員再検査を受診した。また管理区分についても全員D区分であった。 ・職員安全衛生委員会や管理職との面談でも職員の健康状態を確認し、プライバシーに配慮した組織全体で働きやすい職場作りに取組んだ。 ・メンタル疾患で長期休暇を取得した職員はいなかった。	・学校経営計画書にも職員の完全退庁時刻19時15分の実施を明文化し、職員の心の健康や余裕に繋げる。 ・教委で実施するサポート面談や管理職との面談で職員の心身の健康状態を把握し、配慮が必要な職員へ早期に対応する。

イ 健康管理状況

(ア) 令和7年度受診状況

区 分	内 容		
	本 校	伊豆田方分校	愛鷹分校
受診状況	受診者数 103人 職員数 103人	受診者数19人 職員数 19人	受診者数20人 職員数 20人
受 診 率	100.0%		
県平均受診率	100.0%		

(1) 未受診の理由

(イ) 令和8年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人 数		
			本 校	伊豆田方分校	愛鷹分校
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人	0人	0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0人	0人	0人
B 2		要経過観察	0人	0人	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っているが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0人	0人	0人
C 2		要経過観察	0人	0人	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	6人(6)	6人(6)	2人(2)
D 2		要経過観察	29人(29)	2人(2)	7人(7)
D 3		医療不要	67人(67)	11人(11)	11人(11)
区分者計			102人(102)	19人(19)	20人(20)
未区分者数			4人	0人	0人
合 計			106人(106)	19人(19)	20人(20)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 0 人
 イ 新規採用 4 人
 ウ 自己都合による未受診 0 人
 エ その他（特休） 0 人

5(4) 教職員の研修について <本校>

特別支援学校教職員としての専門性を深めるために、研修・研究活動の充実を図り、その成果を日常の教育活動に生かすように努めている。

研修テーマ「児童生徒が自分の良さや成長を実感できる授業づくり～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～」の1年目に当たり、各学部で外部助言者を招聘した授業研究会を年間2回実施し、外部助言者から得た指導助言をもとに授業改善を行った。また、他学部の研究授業の成果や課題、助言等は掲示板や全体研修を通して共有し、活用できるようにした。1年目に研修テーマに迫る授業づくりにおいて必要なこととして確認できたことや次年度に向けての課題は、全体研修で共有し集録にまとめた。

ア 各学部の研修テーマ

【小学部】「一人一人の児童が「できた!」「わかった!」を感じる授業づくり～単元設定と授業改善の充実～」

【中学部】「一人ひとりが「作業が楽しい」「もっとやりたい」と感じる授業づくり～集団のなかで個が活躍できる作業学習～」

【高等部】「沼特プライドを育てる授業づくり～やりたい!作りたい!!思いを自信に変える学びのプロセス～」

イ 研修内容

本校が長らく合わせた指導を研修窓口に取り組んできたこともあり、研修の初年度である令和7年度は、各学部のサブテーマに基づき、実態把握や個に応じた指導にしっかり取り組んでいくことにした。研修全体で「基本の確認」と「話す、考える、共有する」の2点を重点キーワードにして取り組んだ。

「基本の確認」の研修1つ目として、個別の教育支援計画及び指導計画、それらを考え、日々の授業の指導や手立てを考えるツールとなる「流れ図」について自立活動課と連携して研修に取り組んだ。生徒の得意なこと、好きなこと、自信を持って取り組めそうなことの根拠が明らかとなり、指導場面や手立てを考える際に役立てた。2つ目は目指す姿や授業の系統性を確認した。本校で縦割りグループを組み、毎年取り組んでいる「12年間のつながり検討会」の中で、各学年の授業の目標や目的、児童生徒のあらわれを伝え合い、各実践の繋がりについて話し合った。生徒のあらわれを目標や指導の繋がりから理解し、所属学年で児童生徒の目指す姿を再検討、再認識することができた。3つ目に研修の窓口である合わせた指導の内容や配慮事項、指導に関わる教科について学習指導要領で確認した。各授業でどんな力を育てていくのかを確認することができた。「話す、考える、共有する」研修の1つ目として、前年度から単元が始まる前に話し合うツールとして使っていた単元デザインシートを引き続き使い、単元の導入・展開・まとめの各段階でねらう姿、実現したい児童生徒の思いなどを授業担当が話しあって明確化し、児童生徒の思考に沿った単元構想や授業展開を考えていくことにつなげた。2つ目に学部研修の時間をテーマに関する内容や、次の単元についてなどを話し合う時間にし、授業作りや授業改善のための時間として有効に使うことができた。3つ目は、振り返りを大事にした。各学部で振り返りや評価の重要性を確認し、呼びかけをして取り組むことができた。研究授業においても振り返りを大切にし、事後研修会で挙げられた意見や助言者にいただいた意見を共有し、グループで話し合いを持った後に改善授業を行い、その成果も学部で共有するようにした。改善授業では児童生徒の良いあらわれや成長を見ることができた。

授業研究会では、事例児童生徒の指導の検討を中心にしながら研修の取組を進めた。研修の取組に適切な助言が得られるよう、各学部1名ずつ他校から助言者を招聘し、授業参観と指導

助言を通して学部研修や研修に基づく授業づくりの充実を図った。

校内研修のほか、職員の専門性向上のため自立活動学習会やスクールロイヤー研修会など外部講師を招いた学習会も行った。また、県主催の「企業等による教育プログラム提供事業」を中学部、高等部で活用したことで、講師から教員が専門的指導を学び、体育授業における授業展開やチームスポーツで目指すものを考える機会となった。

校外の研修については、特別支援教育課及び県総合教育センターの主催する各種研修会のほか、県特別支援学校（知的障害）研究協議会、県内の各学校の研究大会に参加（オンラインを含む）し、教員の資質向上を図った。帰校後、内容を学部等で報告し、研修の成果を教員間で共有するようにした。

ウ 成 果

令和7年度は「個別最適な学び」に重点を置いた研修となったが、1年間の研修を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の関係性を見ることができた。学部ごと事例児童生徒の立て方を工夫したことで、幅広い実態で「個別最適な学び」を検討することができた。本校のように実態幅があり様々な個性を持っている子供たちが、自分の良さや成長を実感できる授業づくりをしていくには、児童生徒理解が全ての基盤となる。児童生徒理解ができることで、できる状況づくりができ、一人一人が力を十分に発揮できる「個別最適な学び」の充実に繋がる。さらに個々への支援が充実することで、集団の中での自分の居場所ができ、任された役割がしっかりできるなど「協働的な学び」の充実に繋がっていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」は同一軸のものであり、相互に支え合うものであることを、実践を通して実感することができた。

エ 課 題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉えることが大切であることを実感することができた1年目を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の更なる充実に取り組んでいきたい。「個別最適な学び」の充実には、児童の実態や興味・関心、できることに目を向け、できた、分かった、もっとやりたいといった姿を引き出すこと、児童生徒の気持ちや考え、選択や意思を反映させた授業づくりに取り組んでいきたい。また、異なる発達年齢や学年など、様々な実態の個について深めていきたい。「協働的な学び」については、年齢や学年、領域教科、作業班、授業展開などそれぞれで有効な協働の要素についてまとめていきたい。さらに協働については、関わることそのものを目的化せず、評価まで求めることで、個と協働の一体化を図っていきたい。実態把握という基盤を築いた上で、個別最適な学びを充実させ、そこから協働的な学びを充実させる。さらに協働から個に返るところ、個への還元や個がどのように変化したのかの評価、個から協働への往、協働から個への還も見取っていく授業作りを進めていきたいと考える。

5 (4) 教職員の研修について <伊豆田方分校>

ア 研修テーマについて

「生徒の想いを大切にしたい授業づくり ～対話を通して～」

本校は、「共に 育てる 自立と輝き」を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。この目標には以下の3つの思いが込められている。

- ①学校・保護者・地域の方々と共に、生徒が成長していくこと
- ②生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人や社会との関わりが広がること
- ③自分の良さを伸ばし他者から認められ、自信をもって生きる姿、生きる力を高めること

この学校教育目標を達成するために、本校の研修では「確かなつながり」「確かな学び」をキーワードとして目指す生徒の姿の「人とつながり、共に学び合う生徒」「自ら考え、自ら選び、自ら行動する生徒」「将来になりたい姿を思い描き、挑戦や努力をしようとする生徒」の育成に視点をおき授業実践を行っている。

令和7年度まで3年間の研修では 考える力を高める授業づくり～「つながり」の中から～』をテーマに掲げ、教職員が一体となって研修に取り組んできた。3年計画の最終年度である令和7年度は、作業学習を窓口にし、その中でも田方農業高校(以下：田農)との交流及び共同学習の時間におけるつながりに焦点を当てて実践した。授業研究や校内研修を通して、「子どもたちのつながりを支えるICT機器の活用」「共通の目的で授業を設計すること」「生徒にとって必然性のある授業」「田農との打ち合わせの確立」などの成果があがった。一方、作業学習の授業として「作業活動を学習の中心にできたか」「作業学習としての規格に沿った製品であったか」「報告・連絡・相談ができていたか」など学習指導要領の目標と内容のうち「何を学ぶか」を意識した授業については課題が残った。また、授業の振り返りの場面では、生徒の学びを更に深める教師の発問や働き掛けができていたかについても課題が残った。

イ 今年度の研修

窓口教科を職業科とし、「学習指導要領の目標と内容(何を学ぶか)」や「学びを深める教師の関わり」に焦点を当て、生徒自身が想いや感じたことを、教師や仲間との対話を通して深められるような授業づくりを目指す。生徒一人一人が安心して他者と関わり、「自ら考え、自ら選び、自ら行動する生徒」「人とつながり、共に学び合う生徒」「将来になりたい姿を思い描き、挑戦や努力をしようとする生徒」を築けるような研修としたい。

ウ 研修方法

- (1)年度始めの研修で進路指導課長より、本校の進路の考え方について講話。
- (2)日々の授業実践〔年間〕
 - ・全教職員が職業科の授業を行う。(授業カード作成)
 - ・職業科の授業を考える際には学年で中心となる先生や学年の先生方、進路指導課長にも助言をいただきながら作成する。
- (3)授業研究会とPDCAサイクル
 - ・今年度は基本的に「職場実習の振り返り」で授業研究会を行う。(1年：10月、2年：12月、3年：7月)

- ・年2回助言者を招聘(単元カードと授業カードのみ)、年1回定期訪問(指導案作成)での授業研究会を行う。助言者からの指導助言や事後検討会での評価を、授業改善や研修の見直しにつなげる。

(4)月1回の校内研修

- ・校内研修時に直近の職業科の単元について学年で検討する。

(5)授業づくりに関することの情報発信(年間3回以上)

- ・職業科の授業づくりに関することや主体的対話的で深い学びに関することなどの情報を掲示板等で研修課より発信し、教員へ感想アンケートを行う。

5 (4) 教職員の研修について <愛鷹分校>

ア 研修テーマ「自ら考え、決定し、行動できる人を育てる作業学習」

令和7・8・9年度の研修では、校内の作業学習を研究の窓口とし、研修構想図にOODAループの視点を取り入れる。学習の様子が見える化しながら、今までのPDCAサイクルよりも、より速いスパンで授業改善を行っていきたいと考えている。急速に変化し、予測不可能な未来社会であっても、困難を主体的に乗り越えていく生徒を育てたいと考え、『自ら考え、決定し、行動できる人を育てる作業学習』というテーマを設定した。

令和7年度からは、作業学習を学部全体として進め、作業学習のおさを「作業活動をとおり、役割の遂行や協議等により職業生活に必要な働く意欲を培い、主体的に取り組もうとする」とした。人や物との関わり、やり取りをする機会を増やし、生徒たちが考える場面を増えることで、決められた課題の中で発揮される『自主性』から、自分たちで課題に気づき、決定し、取り組む『主体性』へ、実現に向かって仕事にやりがいを持ちながら前向きに進んでいく学習に変わっていくと期待する。さらに、生徒の考えを生かした作業製品の販売をし、一人一人の得意なことを伸ばしたり、最後までやり抜く力を育てたりする力を身につけながら、働くことに夢をもち、自立に向かって努力する生徒を育てたいとも考える。

これまで、教師主導型の学習が多かったが、これからは生徒が主体的に考え、決定、行動し(=生徒主導)、生徒がより主体的に学ぶことができる支援をする。学習を通して、予測できない未来に対応するために、卒業後の社会生活でも、たくましく生き抜く力を得られるようにしたい。地域や高等学校等とのつながりをベースに、生徒自身が「分かるようになりたい。」「できるようになりたい。」という意欲を高め、達成感や成就感を得られるようにしたい。そして、様々なつながりの中で、人から感謝され、一人一人が自信をつけながら更なる高みを目指し、『自ら考え、決定し、行動できる人』を育てていききたいと考えている。

イ 研究の内容・方法

- ・「自ら考え、決定し、行動できる人」の明確化
- ・人や物との関わり、やり取りをする生徒の、支援を評価し、授業改善を図る。
- ・評価からどのような支援や手立てを仕掛けていくか教師の教え方を再構築する。

⇒OODAループの活用

ウ 成果と課題

・成果

生徒の主体性と自信の向上、協働的な学びの活性化、働く意欲の育成と目的意識の共有ができた。

生徒の気づきを促す発問を意識した支援への転換や授業研究を通じて、生徒の具体的な姿から支援の有効性を評価する体制が構築され、教師側の視点の変化と授業改善の進展ができた。

・課題

個別最適な学びの充実を目指す

→一人一人に応じた環境・教材設定、思考を可視化・整理する手立ての工夫

学びの質の深化(“なぜ”の追求)を目指す

→生徒の内発的な動機付け(学び手の視点)をさらに深める教師の発問の質の向上

6 防災対策について <本校>

児童生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう、防災防犯体制を整え、児童生徒の発達段階に応じた防災教育を行った。

また、児童生徒の在校時における南海トラフ地震に関連する情報（臨時）の発表や地震・津波を想定した訓練を3回、火災の発生に備えての訓練を2回、年計5回の避難訓練とスクールバス避難訓練を3回実施した。その他、PTAと連携した福祉避難所開設訓練、中学部を対象とした緊急地震速報訓練、教職員対象の大地震発生時シミュレーション訓練（緊急メール配信訓練含む）、保護者対象の保護者引渡し訓練、災害伝言ダイヤル171訓練を2回、緊急体制訓練を学部ごとに1回実施した。外部講師を招聘し、職員防災研修、AED心肺蘇生法講座を実施した。不審者対応訓練は、外部講師を招聘し、実際に想定した訓練を実施した。

(1) 避難訓練・不審者対応訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
4月22日	第1回火災避難訓練	調理室から出火を想定した避難訓練を実施した。ハンカチで口を押さえ、煙を吸い込まないようにし、避難経路を確認しながら運動場に避難をした。
5月8日 9月4日 1月8日	スクールバス避難訓練	スクールバス乗車時の地震発生への対応（児童生徒の身の守り方、介助員と運転手の動き等）を確認した。登校便2回及び下校便1回実施
5月27日	第1回地震避難訓練	地震の後、津波警報が発令されたことを想定し、各学部とも、各教室で初期避難行動をした。その後、2次避難として3階への垂直避難は行った。トランシーバーを使った点呼、報告を実施した。
6月13日	保護者引渡し訓練	震度5弱以上の地震が発生し、児童生徒が学校待機となったことを想定し、保護者引渡しの手順や役割を確認しながら訓練を行った。
6月13日	<教職員対象> 大地震発生時シミュレーション訓練	各係に分かれ、簡易トイレの設置、発電機の動作確認、物資運搬搬出等を実施した。保護者にコクーメール配信、開封確認し、保護者は運動場での引き渡しを想定した。
6月25日	<教職員対象> 不審者対応訓練	不審者侵入時の組織的な対応（不審者対応、児童生徒の安全確保、校内放送、警察への連絡）を確認するシミュレーション訓練を実施した。
8月5日	<教職員> 職員防災研修(I-DEA)	東部地域局危機管理課から講師を招聘し、災害時に最優先すべき行動とそのために必要な準備について、災害時想定される被害を分析理解し、共有する研修を行った。
8月30日	総合防災訓練（第2回地震避難訓練、非常食試食会）	大規模地震災害発生を想定した地震避難訓練、寝袋体験、映像による防災学習、非常食

		試食会を実施した。
9月2日	第2回火災避難訓練	給食室からの出火を想定した避難訓練を実施した。消防署と連携しての通報訓練、消防車見学、消火訓練、スモーク体験を実施した。
7月1日 12月1日	<保護者対象> 災害伝言ダイヤル171再生訓練 災害伝言ダイヤル171録音訓練	大規模地震発生時を想定し、災害伝言ダイヤルで児童生徒の安否と学校周辺の被害情報を保護者に伝える訓練と家族で決めた電話番号に録音をしてもらう訓練を実施した。
11月5日	緊急地震速報訓練(中学部3年)	緊急地震速報の音やアナウンスを聞き、身を守る行動をとった後、避難時の約束を守り、3階への垂直避難を行った。
8月30日 12月1日	消火訓練 (高等部) 起震車体験 (高等部2年)	水消火器を使った初期消火を体験し、校内の消火器、消火栓の場所についても確認した。起震車で小規模から大規模の地震の揺れを体験した。
12月19日	第3回地震避難訓練	児童生徒、職員に予告なしの抜き打ち訓練を実施した。教室での1次避難の後、2次避難として、全校児童生徒一斉に3階への垂直避難を行った。

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

ア 消防計画・電気工作物・自動ドアは、専門業者に委託して定期的に保守点検を実施した。

イ 月1回の安全点検、半年に1回の安全総合点検を実施し、児童生徒が安全に活動できるように努めた。

(3) 学校警備

退庁時の戸締り、火気点検を徹底し、夜間は警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、災害事故発生防止に努めた。

7 学校開放について

【本校のみ】

地域におけるスポーツ活動等に対し運動場等学校施設を開放している。

事業名	施設名	期 間	日数	利用者	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	7年4月1日から	33日	延771人	17,030円
	運動場	8年3月31日まで	5日	延142人	電気料(実費)

6 防災対策について <伊豆田方分校>

田方農業高校との合同訓練3回、分校独自の訓練を2回行った。教職員の防災研修として災害時の教職員の役割分担に応じた対応訓練を実施した。

(1) 避難・防災訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
4月10日	地区別参集訓練	災害時に同じ居住地区の生徒同士での顔合わせ 田方農業高校との合同参集訓練
5月17日	第1回避難訓練 (作業時における避難経路確認)	地震発生時、また火災発生時、校舎以外の作業時の分散した場所での授業における避難経路確認訓練
7月31日	防災講座(職員)	危機管理局職員からの講話と災害時の配備体制に沿った対応訓練IDEAによるグループ活動 等
9月2日	防災講座(生徒)	危機管理局職員から生徒向けの講話 ※ジュニア防災士取得
9月3日	第2回合同防災訓練 (地震想定)	地震発生時の田方農業高校との合同避難訓練 田方農業高校との非常時での連携確認
12月22日	第3回合同防災訓練 (火災訓練)	火災発生時の田方農業高校との合同避難訓練
2月4日	第4回防災学習	防災食チェック、テント・トイレ設営、応急処置などの体験

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

月1回の安全点検を実施し、生徒が安全に学校生活を送ることが出来るよう努めた。消防施設の点検も行い、教員の防災意識の向上を図るようにした。

(3) 学校警備

鍵の管理の徹底と施錠の徹底を図った。また、不審者対策として来校者の対応の仕方や不審者に遭遇した場合の対処方法などを職員間で確認した。

6 防災対策について <愛鷹分校>

昨年度同様、沼津城北高校の学校防災計画と連動し、分校の防災計画・防災・防犯マニュアル、消防計画を作成した。

沼津城北高校との合同防災訓練を2回行ったほか、分校独自の避難・防災訓練を数回行った。また、1、2年生は外部人材を活用し、自助、共助、公助の意識の向上や実践的方法を学んだ。

(1) 避難・防災訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
5月8日	第1回城北合同防火・防災教育 (沼津城北高校との合同訓練)	地震避難訓練、誘導・避難等の実践、集合 (地区別)・点呼の確認
8月28日	防災研修(教員)	県東部地域局危機管理課担当者の講話(災害 発生時の対応、発生後のメンタルヘルス)
9月1日 ～ 9月4日	全学年 防災学習	災害用伝言ダイヤル(171)訓練
9月4日	第2回避難訓練 (地震発生対応)	地震発生時の避難経路確認(抜き打ち)
9月24日	1年生 防災学習	県東部地域局危機管理課担当者の講話(地震 について)・災害時判断ゲーム
11月4日	第3回 合同地震避難訓練 (沼津城北高校との合同訓練)	火災避難訓練、誘導・避難等の実践、集合 (地区別)・点呼の確認,
12月16日	2年生 防災学習	国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務 局担当者の講話(風水害)・水害への備えに ついてグループワーク

(2) 施設・設備の整備, 保守, 保安

ア 消防点検は沼津城北高校と同日実施した。

イ 教職員が、施設・設備の安全管理意識を持つように努めた。副校長の朝夕の校舎内外 巡視、養護教諭の定期的な巡視のほか、月1回の安全点検を実施して校舎内外の施設・設備管理を徹底し、生徒が安全に活動できるように努めた。

(3) 学校警備

ア 生徒が登校する前に副校長が校内と校舎の周りを巡回した。その際、窓開けと危険箇所のチェックを行い安全確保を行った。

イ 戸締りは、係の生徒が下校前に3階の生徒利用個所の戸締りチェックを実施した。教員の当番が終業時に校舎内の戸締りと火気点検を実施するとともに、副校長が退庁時に再度一巡した。夜間は、警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、防災・防犯に努めた。

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条、第4条、第6条、第9条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行規則 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 学校保健安全法（第5条） 特別支援学校の高等部の学科を定める省令 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第80条、137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱

□□□□

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

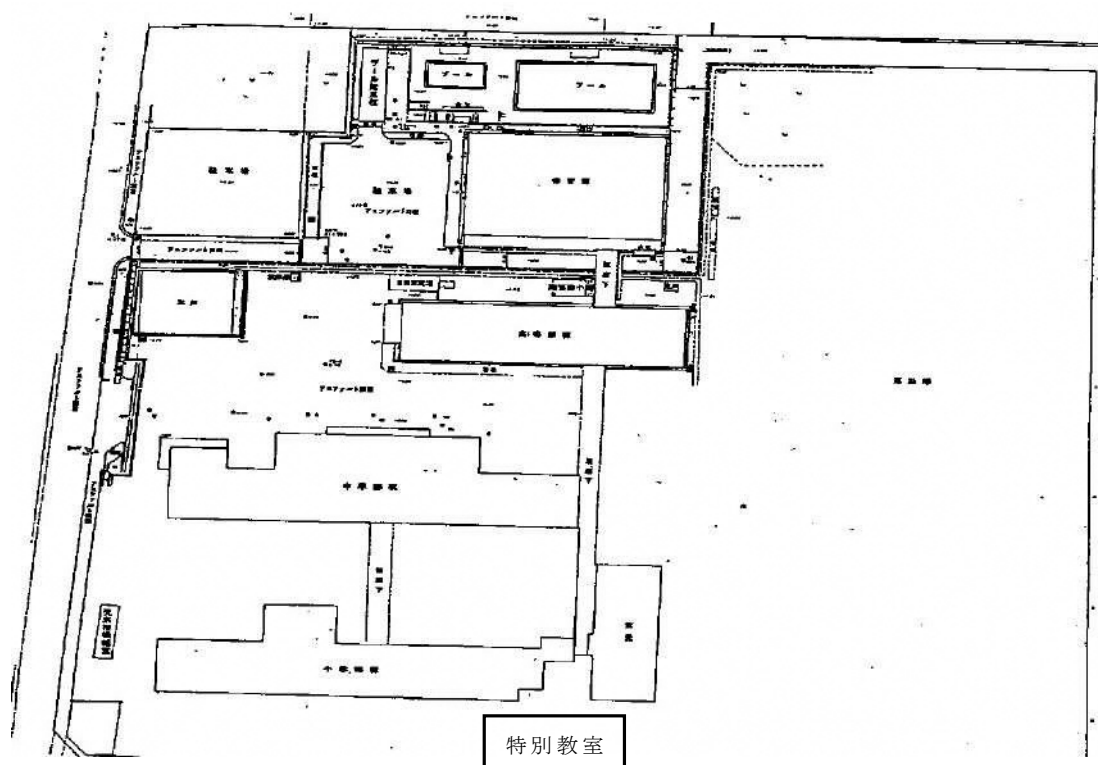
(令和8年3月31日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		18,537.53	18,537.53					
内 訳	校舎敷地	10,459.33	10,459.33					本校
	運動場敷地	8,076.20	8,076.20					本校
	そ の 他 の 敷 地	2.00	2.00					伊豆田方分校 2.00m ² (田方農高使用承認)
実 習 地		2,016.44	302.00				1,714.44	
内 訳	田							
	畑	2,016.44	302.00				1,714.44	本校 905.44m ² 伊豆田方分校302.00m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 809.00m ²
	茶 園							
	果 樹 園							
演 習 林								
校 舎		建 3,095.77 延 6,930.07	3,095.77 6,930.07					本校 2,360.48m ² 5,692.53m ² 伊豆田方分校 361.44m ² 361.44m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 373.85m ² 876.10m ² (沼津城北高使用承認)
体 育 館		建 573.50 延 573.50	573.50 573.50					本校
武 道 場								
その他の建物		建 917.27 延 890.85	建 917.27 延 890.85					本校 505.88m ² 479.46m ² 伊豆田方分校 162.00m ² 162.00m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 249.39m ² 249.39m ² (沼津城北高使用承認)
寄 宿 舎								
生 活 館								
プ ー ル		192	192					
職 員 住 宅								

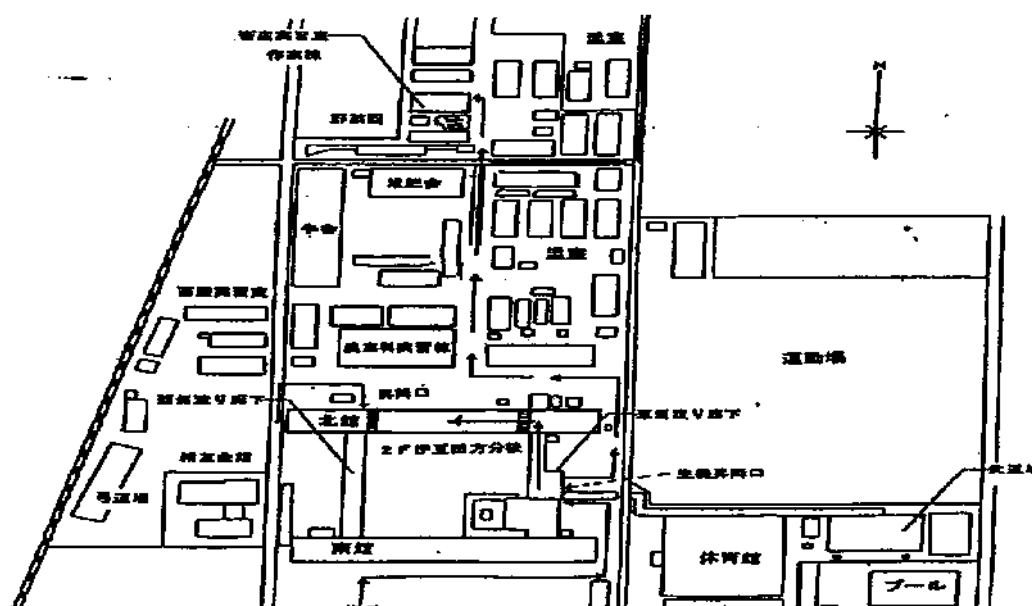
2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図

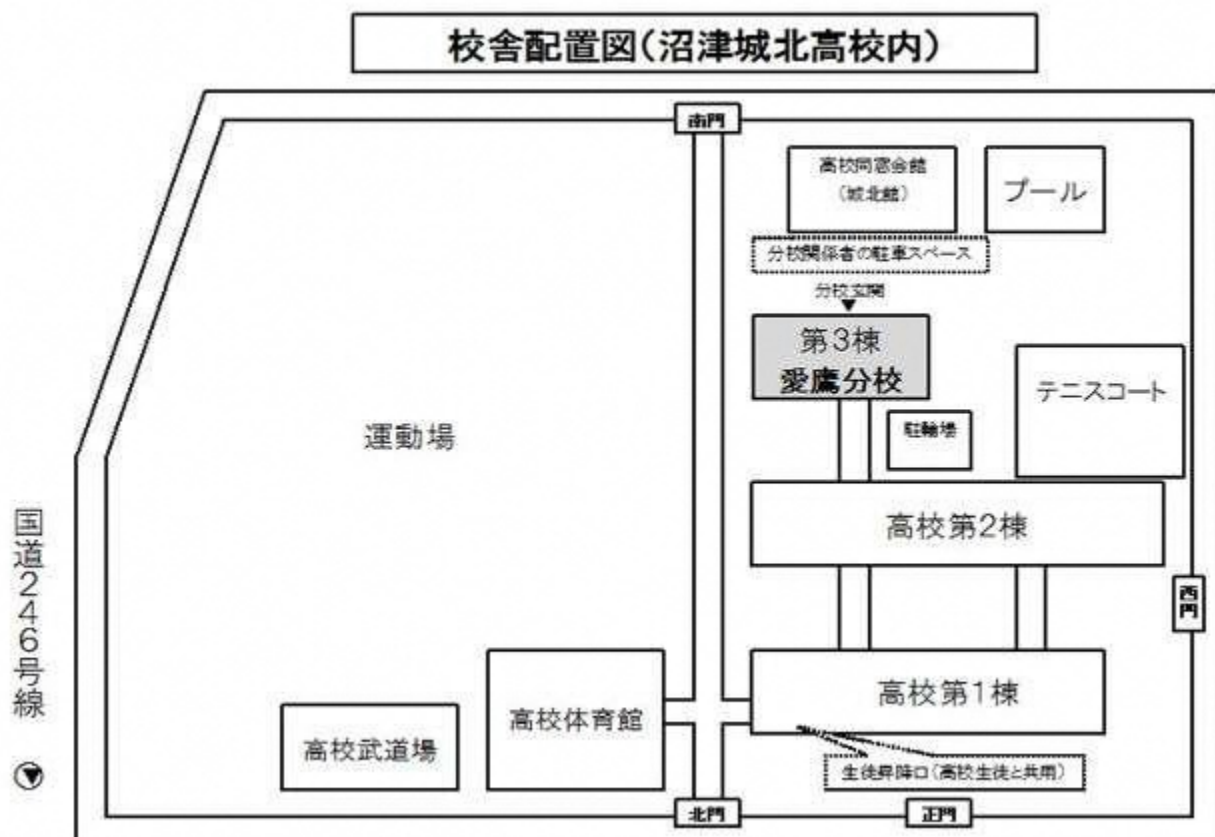
〈本校〉



〈伊豆田方分校〉



〈愛鷹分校〉



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区 分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	本校	18,535.53㎡	5,692.53㎡	8,076.20㎡
	伊豆田方分校	0.00㎡	361.44㎡	0.00㎡
	愛鷹分校	0.00㎡	876.10㎡	0.00㎡
県平均		18,843.25㎡	6,361.36㎡	5,244.43㎡

在 籍 生 徒 調

(本校)

(令和8年3月31日現在)

学年	学科別 区分	小 学 部				中 学 部				高 等 部				計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1 年	入 学 者	-	11	8	19	-	21	3	24	48	22	14	36	-	54	25	79
	増 加		0	1	1		0	0	0		0	0	0		0	1	1
	減 少		0	1	1		0	0	0		0	0	0		0	1	1
	現 在		11	8	19		21	3	24		22	14	36		54	25	79
2 年	入 学 者	-	13	8	21	-	14	5	19	30	13	11	24	-	40	24	64
	増 加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減 少		1	1	2		0	1	1		0	0	0		1	2	3
	2年時当初		12	7	19		14	4	18		13	11	24		39	22	61
	増 加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減 少		0	0	0		0	0	0		2	0	2		2	0	2
3 年	現 在		12	7	19		14	4	18		11	11	22		37	22	59
	入 学 者	-	9	2	11	-	9	6	15	39	13	15	28	-	31	23	54
	増 加		1	0	1		0	0	0		0	0	0		1	0	1
	減 少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初		10	2	12		9	6	15		13	15	28		32	23	55
	増 加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減 少		2	0	2		0	1	1		0	0	0		2	1	3
	3年時当初		8	2	10		9	5	14		13	15	28		30	22	52
4 年	増 加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減 少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初		5	7	12										5	7	12
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	3年時当初		5	7	12										5	7	12
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	4年時当初		5	7	12										5	7	12
	増 加		0	0	0										0	0	0
5 年	減 少		0	0	0										0	0	0
	現 在		5	7	12										5	7	12
	入 学 者	-	6	6	12									-	6	6	12
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	2年時当初		6	6	12										6	6	12
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	1	1										0	1	1
	3年時当初		6	5	11										6	5	11
	増 加		1	0	1										1	0	1
	減 少		0	0	0										0	0	0
	4年時当初		7	5	12										7	5	12
6 年	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	5年時当初		7	5	12										7	5	12
	増 加		0	1	1										0	1	1
	減 少		0	0	0										0	0	0
	現 在		7	6	13										7	6	13
	入 学 者	-	17	4	21									-	17	4	21
	増 加		2	0	2										2	0	2
	減 少		6	3	9										6	3	9
	2年時当初		13	1	14										13	1	14
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		1	0	1										1	0	1
	3年時当初		12	1	13										12	1	13
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		1	0	1										1	0	1
	4年時当初		11	1	12										11	1	12
	増 加		1	0	1										1	0	1
	減 少		0	0	0										0	0	0
	5年時当初		12	1	13										12	1	13
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	6年時当初		12	1	13										12	1	13
	増 加		0	0	0										0	0	0
	減 少		0	0	0										0	0	0
	現 在		12	1	13										12	1	13
合 計			55	31	86		44	12	56		46	40	86		145	83	228

(伊豆田方分校)

学年	学科別 区分		高 等 部			
			定員	男子	女子	計
1 年	入 学 者		18	9	6	15
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	現 在			9	6	15
2 年	入 学 者		18	7	6	13
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	2 年 時 当 初			7	6	13
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	現 在			7	6	13
3 年	入 学 者		18	9	2	11
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	2 年 時 当 初			9	2	11
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	3 年 時 当 初			9	2	11
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	現 在			9	2	11
合 計			54	25	14	39

(愛鷹分校)

学年	学科別 区分		高 等 部			
			定員	男子	女子	計
1 年	入 学 者		18	16	2	18
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	現 在			16	2	18
2 年	入 学 者		18	5	6	11
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	2 年 時 当 初			5	6	11
		増 加		0	0	0
		減 少		1	0	1
	現 在			4	6	10
3 年	入 学 者		18	12	5	17
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	2 年 時 当 初			12	5	17
		増 加		0	0	0
		減 少		1	0	1
	3 年 時 当 初			11	5	16
		増 加		0	0	0
		減 少		0	1	1
	現 在			11	4	15
合 計			54	31	12	43

□□□□

入学志願者及び入学者数調

(本校)

区 分		R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		39	39	30	30	48
募集者数 (B)		39	39	30	30	48
志願者数	男	19	24	13	13	22
	女	12	7	15	11	14
	計 (C)	31	31	28	24	36
受検者数	男	19	24	13	13	22
	女	11	7	15	11	14
	計 (D)	30	31	28	24	36
合格者数	男	19	24	13	13	22
	女	11	7	15	11	14
	計 (E)	30	31	28	24	36
志願倍率 (C) / (B)		0.79	0.79	0.93	0.80	0.75
受検倍率 (D) / (B)		0.77	0.79	0.93	0.80	0.75
入学者数	男	19	24	13	13	22
	女	11	7	15	11	14
	計 (F)	30	31	28	24	36
充足率 (F) / (A)		0.77	0.79	0.93	0.80	0.75

(伊豆田方分校)

区 分		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		18	18	18	18	18
募集者数 (B)		18	18	18	18	18
志願者 数	男	9	7	9	7	9
	女	3	8	2	6	6
	計 (C)	12	15	11	13	15
受検者 数	男	9	7	9	7	9
	女	3	8	2	6	6
	計 (D)	12	15	11	13	15
合格者 数	男	9	7	9	7	9
	女	3	8	2	6	6
	計 (E)	12	15	11	13	15
志願倍率 (C) / (B)		0.67	0.83	0.61	0.72	0.83
受検倍率 (D) / (B)		0.67	0.83	0.61	0.72	0.83
入学者数	男	9	7	9	7	9
	女	3	8	2	6	6
	計 (F)	12	15	11	13	15
充足率 (F) / (A)		0.67	0.83	0.61	0.72	0.83

(愛鷹分校)

区 分		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		18	18	18	18	18
募集者数 (B)		18	18	18	18	18
志願者数	男	12	12	12	5	19
	女	8	6	5	6	5
	計 (C)	20	18	17	11	24
受検者数	男	12	12	12	5	19
	女	8	6	5	6	5
	計 (D)	20	18	17	11	24
合格者数	男	11	12	12	5	16
	女	7	6	5	6	2
	計 (E)	18	18	17	11	18
志願倍率 (C) / (B)		1.11	1.00	0.94	0.61	1.33
受検倍率 (D) / (B)		1.11	1.00	0.94	0.61	1.33
入学者数	男	11	12	12	5	16
	女	7	6	5	6	2
	計 (F)	18	18	17	11	18
充足率 (F) / (A)		1.00	1.00	0.94	0.61	1.00

□□□□

卒業生の動向調

(本校)

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		13			13
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等			4		4
就 職			2		2
上 記 以 外 ※		1	22		23
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)		14	28		42

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設		1	21		22
(うち就労系支援事業利用者)		(0)	(12)	()	(12)
医療機関					
計		1	21		22

□□□□

卒業生の動向調

(伊豆田方分校)

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職			5		5
上 記 以 外 ※			6		6
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)			11		11

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			6		6
(うち就労系支援事業利用者)		()	(6)	()	(6)
医療機関					
計			6		6

□□□□

卒業生の動向調

(愛鷹分校)

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等			2		2
就 職			6		6
上 記 以 外 ※			7		7
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)			15		15

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			7		7
(うち就労系支援事業利用者)		()	(7)	()	(7)
医療機関					
計			7		7

生徒の状況

1 生徒の居住地及び通学方法

(1) 居住地

(本校) (令和8年3月31日現在) (単位：人)

市町名	沼津市	清水町	長泉町	合 計
生徒数	167	27	34	228
構成比%	73%	12%	15%	100%

(伊豆田方分校)

市町名	伊豆市	伊豆の国市	函南町	その他	合 計
生徒数	5	13	13	8	39
構成比%	13%	33%	33%	21%	100%

(愛鷹分校)

市町名	御殿場市	裾野市	沼津市	三島市	長泉町	清水町	合 計
生徒数	2	4	22	4	6	5	43
構成比%	5%	9%	51%	9%	14%	12%	100%

(2) 通学方法

(本校) (令和8年3月31日現在) (単位：人)

区 分	スクールバス	徒歩	自家用車	路線バス	JR・私鉄	自転車	あしたか学園	合 計
生徒数	125	25	52	14	2	0	10	228
構成比%	55%	11%	23%	6%	1%	0%	4%	100%

(伊豆田方分校)

区 分	徒歩	鉄道	鉄道・バス	自転車	電車・自転車	その他	合計
生徒数	10	13	3	1	8	4	39
構成比%	26%	33%	8%	2%	21%	10%	100%

(愛鷹分校)

区 分	徒歩	路線バス	鉄道・徒歩	鉄道・バス	自転車・鉄道	自転車・バス	自転車	合 計
生徒数	9	8	10	5	3	0	8	43
構成比%	21%	19%	23%	11%	7%	0%	19%	100%

(3) 自転車通学に係るルールや要件

(伊豆田方分校)

ヘルメット所持要件	有・無	ヘルメット着用要件	有・無
-----------	-----	-----------	-----

(愛鷹分校)

ヘルメット所持要件	有・無	ヘルメット着用要件	有・無
-----------	-----	-----------	-----

(4) ヘルメット所持、着用率

(伊豆田方分校)

(令和8年3月31日現在) (単位:人)

入学年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合 計
自転車通学者数	4	1	4	9
ヘルメット所持者数	2	1	4	7

着用率・着用状況	ヘルメット着用は要件とはせず推奨している。所持しているが、着用していない生徒が1名いる。
----------	--

(愛鷹分校)

入学年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合 計
自転車通学者数	5	0	6	11
ヘルメット所持者数	3	0	2	5

着用率・着用状況	ヘルメット着用を推奨している。着用率は45%程度。
----------	---------------------------

2 部(クラブ)の加入状況

(本校 高等部)

(令和8年3月31日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		2	1		3
男子	1 年	1	3	18	22
	2 年	1	3	7	11
	3 年	6	0	7	13
	計 (A)	8	6	32	46
	構成比	17%	13%	70%	100%
女子	1 年	1	1	12	14
	2 年	1	0	10	11
	3 年	5	0	10	15
	計 (B)	7	1	32	40
	構成比	17%	3%	80%	100%
合計	(A + B)	15	7	64	86
	構成比	18%	8%	74%	100%

(伊豆田方分校 高等部)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		1	1		2
男子	1 年	6	2	1	9
	2 年	6	0	1	7
	3 年	4	4	1	9
	計 (A)	16	6	3	25
	構成比	64%	24%	12%	100%
女子	1 年	1	3	2	6
	2 年	0	6	0	6
	3 年	1	0	1	2
	計 (B)	2	9	3	14
	構成比	14%	64%	22%	100%
合計	(A + B)	18	15	6	39
	構成比	46%	38%	16%	100%

(愛鷹分校 高等部)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		1	1		2
男子	1 年	6	5	5	16
	2 年	1	1	2	4
	3 年	5	1	5	11
	計 (A)	12	7	12	31
	構成比	39%	22%	39%	100%
女子	1 年	1	1	0	2
	2 年	1	4	1	6
	3 年	1	0	3	4
	計 (B)	3	5	4	12
	構成比	25%	42%	33%	100%
合計	(A + B)	15	12	16	43
	構成比	35%	28%	37%	100%

3 障害別児童生徒数

(本校)

(令和8年3月31日現在) (単位：人)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	学級数
小学部	単一障害	11	11	4	7	8	8	49	11
	重複障害	8	8	6	5	5	5	37	14
	肢体重複								
	合計	19	19	10	12	13	13	86	25
中学部	単一障害	17	14	9				40	8
	重複障害	7	4	5				16	7
	肢体重複								
	合計	24	18	14				56	15
高等部	単一障害	34	19	26				79	9
	重複障害	2	3	2				7	3
	肢体重複								
	合計	36	22	28				86	12

(伊豆田方分校)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	学級数
高等部	単一障害	15	13	11				39	6
	重複障害								
	肢体重複								
	合計	15	13	11				39	6

(愛鷹分校)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	学級数
高等部	単一障害	18	10	15				43	6
	重複障害								
	肢体重複								
	合計	18	10	15				43	6

4 起因疾患別児童生徒数

(本校)

(令和8年3月31日現在) (単位：人)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
小学部	8	17	53	1	3	0	4	86
中学部	6	14	32	1	4	0	0	56
高等部	18	13	24	1	1	0	29	86
計	32	44	109	3	8	0	33	228

(伊豆田方分校)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	4	1	17	1	0	0	16	39

(愛鷹分校)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	1	0	21	0	0	0	21	43

□□□□

保管現金有高調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

現金保管者	区 分	金 額 円
静岡県立沼津特別支援学校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	4,340円
静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	500円
静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	220円

□□□□

預 金 調

(令和8年3月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 円	摘 要
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530760	沼津特別支援学校 資金前渡者 青木 暁乃	0	給料及び資金前渡 金の受領
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530759	自振口 沼津特別支援学校 資金前渡者 青木 暁乃	0	社会保険料、電話 料等の自動振替
残 高 合 計				0	

□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和8年3月31日現在)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和6年度						令和7年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
郵 券	はがき	1	52	0	0	1	52	0	0	0	0	0	0	0	0	連絡用
	往復はがき	6	624	0	0	0	0	6	624	0	0	0	0	6	624	
	110円券	0	0	0	0	0	0	0	0	82	9,020	82	9,020	0	0	
	10円券	0	0	1	10	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1円券	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			676		11		63		624		9,020		9,020		624	
タクシー チケット	原町 タクシー	6		50		15		41		0		10		31		児童生徒 緊急時 輸送用
	伊豆箱 根交通	22		0		2		20		0		1		19		
	沼津市個人 タクシー協 同組合	18		0		0		18		0		0		18		
計		46		50		17		79		0		11		68		

□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和 8 年 3 月 31 日 現在)

区分 品名	令和 6 年度						令和 7 年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
布	0	0円	1,352	136,488円	1,352	136,488円	0	0円	1,593	165,515円	1,593	165,515円	0	0円	
木材	0	0円	160	121,615円	160	121,615円	0	0円	42	71,278円	42	71,278円	0	0円	
粘土	0	0円	20	79,865円	20	79,865円	0	0円	22	90,541円	22	90,541円	0	0円	
計	0	0円	1,532	337,968円	1,532	337,968円	0	0円	1,657	327,334円	1,657	327,334円	0	0円	

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和6年度)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		64,567,998	0
委託料	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		15,231,425	0
計					57,870,872	79,799,423	0
(14)	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		880,000	0
工 事 請負費							
計					3,619,000	880,000	0
(16)						0	0
公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		992,640	0
備 品 購入費							
計					3,650,680	992,640	0
(18)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		99,597	0
負担金、補 助及び交付 金							
計					88,613	99,597	0
(21)							
補償、補填 及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	59,195,906	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	15,355,531	0
計					74,551,437	0
(14) 工 事 請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	8,028,900	0
計					8,028,900	0
(16) 公有財産 購入費					0	0
計					0	0
(17) 備 品 購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	3,787,458	0
計					3,787,458	0
(18) 負担金、補 助及び交付 金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	115,047	0
計					115,047	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金額	委託業務の 内 容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理 業務	エコラ イフ株式 会社	円 55,116,476	円 44,748,000	円 0	円 44,748,000	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	円 (9,944,000) 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 14,916,000	学校給 食調理 業務	R5 長期
2	スクール バス輸送 業務	富士急シ ティバス 株式会 社本営業 所	193,228,530	193,228,530	0	193,228,530	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	(0) 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 64,409,400	スクール バスの運 行	R6 長期
3	自動ドア 保守管理 業務	中日本 オートド ア株式 会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.9.6 7.3.7 小計	11,000 11,000 22,000	自動ドア の保守 及び点 検	随契 1号 (少額)
4	防鼠防虫 業務	株式会 社三島美 装	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.4.8 ～ 7.3.31	6.10.25 7.4.11 小計	42,900 56,100 99,000	給食室の ゴキブリ、 鼠等の駆 除防除	随契 1号 (少額)
5	グリストラップ清 掃及び産業廃 棄物収集運搬 業務	伊豆総業 株式会 社	156,750	156,750	0	156,750	随契	6.5.27 ～ 7.3.31	6.8.9 7.1.22 7.4.15 小計	52,250 52,250 52,250 156,750	グリスト ラップ清 掃汚泥運 搬業務	随契 1号 (少額)
6	産業廃棄 物(汚泥) 処分業務	クリーン サービス 株式会 社	57,750	57,750	5,500	63,250	随契	6.5.27 ～ 7.3.31	6.8.19 7.1.20 7.4.16 小計	18,975 20,900 19,800 59,675	グリスト ラップ汚 泥処分 業務	随契 1号 (少額)
7	産業廃棄 物収集運 搬及び処 分業務	株式会 社イー シー センタ ー	運搬料(1回あた り)@11,000 処分料(1kgあた り)@44	運搬料(1回あた り)@10,450 処分料(1kgあた り)@44	0	運搬料(1回あた り)@10,450 処分料(1kgあた り)@44	随契	6.6.21 ～ 7.3.31	6.9.20 7.4.22 小計	47,410 55,330 102,740	産業廃 棄物の 収集運 搬処分	随契 1号 (少額) 単価契 約
8	産業廃棄 物収集運 搬及び処 分業務	セキトラ ンシステ ム株式 会 社	33,858	33,858	0	33,858	随契	6.7.19 ～ 6.9.30	6.9.20	33,858	業務用冷 蔵庫及び 蛍光灯の 収集運搬 処分	随契 1号 (少額)
	事務関係計	8件							小計	79,799,423		
	合計	8件								79,799,423		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金額	委託業 務の内 容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考 1	警備 業務	セコム株 式会社		円 8,316,000	円 0	円 8,316,000		1.10.1 ～ 6.9.30			学校施 設(本校・ 愛鷹分 校)の機 械警備	沼津東
参考 2	警備 業務	セコム株 式会社		17,820,000	0	17,820,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施 設(本校・ 愛鷹分 校)の機 械警備	沼津東
参考 3	警備 業務	セコム株 式会社		14,256,000	1,322,750	15,578,750		1.10.1 ～ 6.9.30			学校施 設(伊豆 田方分 校)の機 械警備	三島北
参考 4	警備 業務	セコム株 式会社		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施 設(伊豆 田方分 校)の機 械警備	三島北
参考 5	消防用設 備等保守 点検業務	株式会社 藤興産		4,180,000	0	4,180,000		6.4.1 ～ 7.3.31			消防用 設備の 保守点 検	沼津工 業
参考 6	自家用電 気工作物 保安業務	橋本電気 管理事務 所		749,100	0	749,100		6.4.1 ～ 7.3.31			校内電 気工作 物の保 守点検	沼津聴 覚特別 支援
参考 7	可燃物収 集運搬処 理業務	有限会社 大真商会		運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @25,410 プラスチック 製容器包装 @25,410 処分料 (1kgあたり) @6.82	0	運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @25,410 プラスチック 製容器包装 @25,410 処分料 (1kgあたり) @6.82		6.4.12 ～ 7.3.31			燃やす ゴミ、プ ラスチッ クゴミの 収集運 搬処理	単価契 約沼津 城北
参考 8	プール浄 化装置保 守点検業 務	三友水処 理株式会 社		196,680	0	196,680		6.4.11 ～ 6.11.30			プール 浄化装 置保守 点検	沼津西
参考 9	沼津地区 県立学校 建築基準 法第12条 に基づく 定期点検 業務	有限会社 一級建築 士事務所 アドス設 計室		1,694,000	0	1,694,000		6.8.13 ～ 7.2.28			建築基 準法第 12条に 基づく 点検	沼津西
	計	9件										

□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和8年3月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金額	委託業務の 内 容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理 業務	エコラ イフ株式 会社	円 55,116,476	円 44,748,000	円 -9,933,176	円 34,814,824	一般	5.8.1 ～ 7.11.12	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	円 (24,860,000) 1,244,353 1,244,353 1,244,353 1,244,353 1,244,353 1,244,353 7,466,118	学校給 食調理 業務	R5 長期 契約金額 変更理由 契約解除 のため
2	給食業務 委託	株式会社 マルヨ	8,017,836	8,017,836	0	8,017,836	随契	7.12.1 ～ 8.3.31	8.1.30 8.2.27 8.3.31 小計	2,004,459 2,004,459 2,004,459 6,013,377	学校給 食調理 業務	随契 5号 (緊急)
3	スクール バス輸送 業務	富士急シ ティバス 株式会社 本社営業 所	193,228,530	193,228,530	0	193,228,530	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.24 8.1.30 8.2.27 8.3.31 小計	(64,409,400) 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 5,367,450 59,041,950	スクール バスの運 行	R6 長期
4	自動ドア 保守管理 業務	中日本 オートド ア株式会 社	22,000	22,000	0	22,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.9.4 8.3.10 小計	11,000 11,000 22,000	自動ドア の保守 及び点 検	随契 1号 (少額)
5	防鼠防虫 業務	株式会社 三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	7.4.2 ～ 8.3.31	7.10.16 小計	42,900 42,900	給食室の ゴキブリ、 鼠等の駆 除防除	随契 1号 (少額)
6	グリストラップ清 掃及び産業廃 棄物収集運搬 業務	伊豆総業 株式会社	166,650	166,650	0	166,650	随契	7.5.19 ～ 8.3.31	7.8.18 8.1.30 小計	55,550 55,550 111,100	グリスト ラップ清 掃汚泥運 搬業務	随契 1号 (少額)
7	産業廃棄 物(汚泥) 処分業務	クリーン サービス 株式会社	57,750	57,750	0	57,750	随契	7.5.19 ～ 8.3.31	7.8.18 8.1.30 小計	19,250 19,250 38,500	グリスト ラップ汚 泥処分 業務	随契 1号 (少額)
8	産業廃棄 物収集運 搬及び処 分業務	株式会 社イー シー センタ ー	運搬料(1回あた り)@11,000 処分料(1kgあた り)@55	運搬料(1回あた り)@13,200 処分料(1kgあた り)@44	0	運搬料(1回あた り)@13,200 処分料(1kgあた り)@44	随契	7.5.30 ～ 8.3.31	7.9.24	48,400	産業廃 棄物の 収集運 搬処分	随契 1号 (少額) 単価契 約
9	産業廃棄 物収集運 搬及び処 分業務	セキトラ ンシス テム株 式会 社	41,910	41,910	0	41,910	随契	7.8.8 ～ 7.9.30	7.9.12	41,910	業務用冷 蔵庫の収 集運搬処 分	随契 1号 (少額)
10	産業廃棄 物収集運 搬及び処 分業務	株式会 社ホク セイ	41,646	41,646	0	41,646	随契	7.8.18 ～ 7.9.30	7.9.30	41,646	蛍光管及 び乾電池 の収集運 搬処分	随契 1号 (少額)
	事務関係計	10件							小計	72,735,945		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金額	委託業 務の内 容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	合計	10件								72,735,945		
参考 1	警備 業務	セコム株 式会社		17,820,000	0	17,820,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施 設(本校・ 愛鷹分 校)の機 械警備	沼津東
参考 2	警備 業務	セコム株 式会社		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			学校施 設(伊豆 田方分 校)の機 械警備	三島北
参考 3	消防用設 備等保守 点検業務	株式会社 藤興産		4,378,000	0	4,378,000		7.4.1 ～ 8.3.31			消防用 設備の 保守点 検	沼津工 業
参考 4	自家用電 気工作物 保安業務	橋本電気 管理事務 所		749,100	0	749,100		7.4.1 ～ 8.3.31			校内電 気工作 物の保 守点検	沼津聴 覚特別 支援
参考 5	可燃物収 集運搬処 理業務	有限会社 大真商会		運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @25,410 プラスチック 製容器包装 @25,410 処分料 (1kgあたり) @6.82	0	運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @25,410 プラスチック 製容器包装 @25,410 処分料 (1kgあたり) @6.82		7.4.8 ～ 8.3.31			燃やす ゴミ、プ ラスチッ クゴミの 収集運 搬処理	単価契 約沼津 城北
参考 6	プール浄 化装置保 守点検業 務	三友水処 理株式会 社		183,700	0	183,700		7.4.11 ～ 7.11.28			プール 浄化装 置保守 点検	沼津西
参考 7	沼津地区 県立学校 建築基準 法第12条 に基づく 定期点検 業務	佐藤設計 一級建築 士事務所		1,650,000	0	1,650,000		7.7.25 ～ 8.2.20			建築基 準法第 12条に 基づく 点検	沼津西
	計	7件										

負 担 金 支 出 調

(令和 6 年度)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事 業 内 容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター理事長	開催要項による	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会受講	円 13,750	6. 5. 22
2	令和 6 年度全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則による	学校の管理運営に関する調査及び研究	15,000	6. 7. 11
3	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会実行委員長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	3,000	6. 7. 18
4	令和 6 年度東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規約による	学校の管理運営に関する調査及び研究	5,000	6. 7. 25
5	第48回東海地区知的障害教育研究大会参加費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	2,000	6. 8. 13
6	愛鷹分校土地使用貸借にかかる必要経費	個人	土地使用貸借契約書による	生徒実習用地貸借	60,847	6. 10. 10
	計	6 件			99,597	

負担金支出調

(令和7年度)

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理新規講習 受講料	一般財団法人日 本防火・防災協 会理事長	開催要項 による	甲種防火管理新規 講習受講	8,000	7.4.17
2	特別管理産業廃棄物管 理責任者に関する講習 会受講料	公益財団法人日 本産業廃棄物処 理振興センター 理事長	開催要項 による	特別管理産業廃棄 物管理責任者に関 する講習会受講	13,200	7.4.22
3	第48回全国特別支援学 校知的障害教育校長研 究大会参加費	第48回全国特別 支援学校知的障 害教育校長研究 大会実行委員長	開催要項 による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	3,000	7.7.8
4	令和7年度全国特別支 援学校知的障害教育校 長会会費	全国特別支援学 校知的障害教育 校長会会長	会則による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	15,000	7.7.14
5	令和7年度東海地区特 別支援学校知的障害教 育校長会会費	東海地区特別支 援学校知的障害 教育校長会会長	規約による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	5,000	7.8.4
6	第49回東海地区知的障 害教育研究大会参加費	東海地区特別支 援学校知的障害 教育校長会会長	開催要項 による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	2,000	7.8.14
7	愛鷹分校土地使用貸借 にかかる必要経費	個人	土地使用 貸借契約 書による	生徒実習用地貸借	60,847	7.10.8
8	甲種防火管理新規講習 受講料	一般財団法人日 本防火・防災協 会理事長	開催要項 による	甲種防火管理新規 講習受講	8,000	8.1.20
	計	8件			115,047	

□□□□

建 築 工 事 調

(令和 6 年度)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初 設計金額	契約金額			契約締結 方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育管理費	体育館排煙窓オペレーター更新他工事	沼津市 大塚地内	円 1,562,000	円 880,000	円 0	円 880,000	随契	富士峰建設株式会社	R6. 7. 30 R6. 9. 27	880,000	体育館の排煙窓オペレーター及びカーテンレールの更新	—	令達年月日R6. 7. 10 最終支払日R6. 10. 24 随契 1 号 (少額)
		合計	1 件		880,000	0	880,000				880,000			

建 築 工 事 調

(令和 7 年度)

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初 設計金額	契約金額			契約締結 方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育管理費	食堂空調機更新工事	沼津市 大塚地内	円 6,974,000	円 6,897,000	円 0	円 6,897,000	指名	株式会社レイダン	R7. 6. 25 R7. 9. 17	6,897,000	食堂の空調機 5 台の更新	済	令達年月日R7. 6. 3 最終支払日R7. 10. 31
2	教育管理費	小学部棟空調機修繕工事	沼津市 大塚地内	1,133,000	1,131,900	0	1,131,900	随契	東工業株式会社	R7. 9. 11 R7. 11. 5	1,131,900	2 教室のマルチエアコン室外機の修繕	—	令達年月日R7. 8. 18 最終支払日R7. 11. 27 随契 1 号 (少額)
3	教育管理費	高等部棟 1 階普通教室空調機更新工事	沼津市 大塚地内	1,188,000	1,188,000	0	1,188,000	随契	東工業株式会社	R7. 12. 25 R8. 3. 13	0	空調機 1 台の更新	済	令達年月日R7. 12. 10 最終支払日R8. 4. 3 随契 1 号 (少額)
4	教育管理費	誘導灯設備更新他工事	沼津市 大塚地内	3,245,000	3,245,000	0	3,245,000	随契	株式会社藤興産	R8. 1. 8 R8. 3. 26	0	誘導灯設備の更新及び非常電源設備の修繕	—	令達年月日R7. 11. 13 最終支払日R8/04. 30 随契 1 号 (少額)
		合計	4 件		12,461,900	0	12,461,900				8,028,900			
参考	教育管理費	小学部棟屋内消火栓配管更新工事	沼津市 大塚地内	8,349,000	8,140,000	△ 451,000	7,689,000	指名	株式会社FUJINPROTEC	R7. 10. 27 R8. 2. 27	0	漏水した小学部棟屋内消火栓埋設配管の更新	—	本庁経理 最終支払日R8. 4. 30 予定 設備課

□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,539,868		千円 51		千円 33,830		千円 1,506,089	
土 地	18,011.40m ²	1,294,247	0.02				18,011.42m ²	1,294,247	
立木竹									
樹 木	20本	130	320	51	2	13	338本	168	
建 物	$\frac{3,439.84\text{m}^2}{6,745.47\text{m}^2}$	94,240	$\frac{0.02}{0.02}$			22,894	$\frac{3,439.86\text{m}^2}{6,745.49\text{m}^2}$	71,346	
工作物	106個	151,251	6			10,923	112個	140,328	
普通財産		0						0	
土 地	0m ²	0					0m ²	0	
建 物	0m ²	0					0m ²	0	
工作物	0個	0					0個	0	
公有財産 に準ずる もの		504						504	
電 話 加入権	9件	504					9件	504	

□□□□

公 有 財 産 調

(令和7年度)

区分	令和7年3月31日 現 在		増		減		令和8年3月31日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,506,089		千円 31,218		千円 29,930		千円 1,507,377	
土 地	18,011.42m ²	1,294,247	524.11	23,707			18,535.53m ²	1,317,954	
立木竹									
樹 木	338本	168	2		2		338本	168	
建 物	$\frac{3,439.86\text{m}^2}{6,745.49\text{m}^2}$	71,346				16,678	$\frac{3,439.86\text{m}^2}{6,745.49\text{m}^2}$	54,668	
工作物	112個	140,328	7	7,511		13,252	119個	134,587	
普通財産		0						0	
土 地	0m ²	0					0m ²	0	
建 物	0m ²	0					0m ²	0	
工作物	0個	0					0個	0	
公有財産 に準ずる もの		504						504	
電 話 加入権	9件	504					9件	504	

□□□□

借地借家等調

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	実習地	沼津市岡宮字 七ツ枝440番2	田	畑	m ² 809.00		無償	7.4.1 ～8.3.31	個人	愛鷹分校 農耕作 業学習
2	土地	実習地	沼津市大塚字 雁作831番1	田	畑	905.44		無償	6.4.1 ～9.3.31	個人	本校 農耕作 業学習
3	土地	学校敷地	田方郡函南町 塚本字七反田 961			2.00		無償	6.4.1 ～9.3.31	静岡県立 田方農業 高等学校	伊豆田 方分校 指標 敷地
4	土地	畑	田方郡函南町 間宮字上正方			302.00		無償	6.4.1 ～9.3.31		伊豆田 方分校 実習地
5	工作物	温室装置	745			1 個		無償	6.4.1 ～9.3.31		
6	建物	事務所建	田方郡函南町 塚本字七反田 961			361.44		無償	6.4.1 ～9.3.31		伊豆田 方分校 校舎
7	建物	雑屋建	田方郡函南町 塚本字元作り 954-3			162.00		無償	6.4.1 ～9.3.31		伊豆田 方分校 実習棟
8	建物	事務所建	沼津市岡一色 875			876.10		無償	6.4.1 ～9.3.31	静岡県立 沼津城北 高等学校	愛鷹 分校 校舎
9	建物	雑屋建				249.39		無償			愛鷹分 校自転 車置場
	計					土地 2,018.44 建物 1,648.93 工作物 1 個		0			

□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額									
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 2.4.1	392,370	78,474	78,474	78,474	78,474	78,474				
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 2台の使用料 (契約日) 5.4.1	1,164,240				232,848	232,848	232,848	232,848	232,848	
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 6.4.1	271,920					54,384	54,384	54,384	54,384	54,384
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 1台の使用料 (契約日) 4.7.1	3,300,000			440,000	660,000	660,000	660,000	660,000	220,000	
	給食調理(配膳)業務	給食の調理及び 配膳業務 (契約日) 5.7.28	44,748,000				9,944,000	14,916,000	14,916,000	4,972,000		
	スクールバス輸送業務	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日) 6.4.1	193,228,530					64,409,400	64,409,400	64,409,730		

(令和7年度)
(令和8年3月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額								
				4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 2台の使用料 (契約日) 5.4.1	1,164,240		232,848	232,848	232,848	232,848	232,848		
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 6.4.1	271,920			54,384	54,384	54,384	54,384	54,384	
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 7.4.1	483,120				96,624	96,624	96,624	96,624	96,624
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 1台の使用料 (契約日) 4.7.1	3,300,000	440,000	660,000	660,000	660,000	660,000	220,000		
	給食調理(配膳)業務	給食の調理及び 配膳業務 (契約日) 5.7.28	34,814,824		9,944,000	14,916,000	9,954,824				
	スクールバス輸送業務	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日) 6.4.1	193,228,530			64,409,400	64,409,400	64,409,730			

□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又 は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は 使用許可 を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務 所建	沼津市 大塚 823-1	R C 3 階		1.00 m ²		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	沼津市長	同報無線 個別受信 機設置
合計								0			

□□□□

主 要 備 品 調

(令和8年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額(円)	摘要
	大・中	小					
1	01-13	調理器具	ガス式スチームコンベクションオープン CSX-GW101-TC	毎日(年間185日) 給食調理用	R 7. 8	3,080,000	25-000622
2	01-13	調理器具	真空冷却機 外形820×965×1580	毎日(年間185日) 給食食材冷却用	H31. 3	3,024,000	18-005004
3	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄機 SD340GSH 外形1180×770×134	毎日(年間185日) 給食食器洗浄	R 2. 3	2,629,000	19-009380
4	10-08	その他の芸術用器具	引出式電気窯 2000DLP型	月8日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	1,785,000	08-009821
5	06-09	木工用機械	パネルソー SZ3-6000	月8日(年間88日) 作業学習用	H24. 3	1,690,500	11-020304
6	01-13	その他の厨房機器	電気式食器消毒保管庫 MCW-40e 両面式 棚5段	毎日(年間185日) 食器消毒・保管	R 3. 12	1,573,000	21-007091
7	10-08	その他の芸術用器具	電気式陶芸窯 酸化型 横扉開閉引出	月2日(年間16日) 作業学習用	H30. 3	1,479,600	17-004916
8	01-04	移動書庫	移動書庫 オカムラ6連×4連	毎日(年間243日) 教務用書類保管	H 9. 9	1,300,000	97-006093
9	01-99	その他の庁用器具	校旗 西陣日本製 K24本金	年間30日 学校行事用	H25. 3	963,165	12-004337
10	01-04	移動書庫	手動式スライド書架	毎日(年間243日) 教務書類保管	H26. 3	864,570	13-006578
11	10-08	その他の芸術用器具	真空土練機 ステンレス羽根	月12日(年間132日) 作業学習用	H25. 10	804,300	13-001920
12	12-01	雑機器	組立倉庫	毎日(年間365日) 防災用	H 6. 3	782,800	93-018935
13	01-07	製本機	製本機	月4日(年間44日) 作業学習用	H25. 3	735,000	12-005662
14	10-08	その他の芸術用器具	真空式循環粘土再生機 MHS-20SW	月8日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	724,500	08-009825
15	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハC3B	毎日(年間243日) 音楽授業用	H 9. 4	711,000	97-000005
16	10-08	その他の芸術用器具	レーザー加工機 HSG HS-Z4030	月4日(年間44日) 作業学習用	H30. 3	685,800	17-004163
17	01-13	調理器具	ガス回転釜 GHS-32	毎日(年間185日) 給食調理用	R 6. 3	682,000	23-003721
18	06-09	木工用機械	自動カンナ マキタ2035	月10日(年間104日) 作業学習用	H15. 10	609,735	03-003829
19	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵(凍)庫	毎日(年間185日)	H20. 3	601,650	07-007295
20	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄器	毎日(年間185日) 食器消毒・保管	H10. 3	598,500	97-024705

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和8年3月31日現在)

	主な生産品目
令和7年度	<手芸品・工作物> (本校) ポチ袋 ミニバスケット ハニーバスケット 商品短冊 小物入れ シードペーパー クリスマスリース ビーズストラップ ウッドボック クス ティッシュボックス ミニベンチ 中ベンチ 長ベンチ 富士 山マグネット (小) 富士山マグネット (大) プチトートバッグ 大 小くるみボタンヘアゴム 巾着ポーチ (愛鷹分校) 巾着袋 (小) 布製小物 (大、中、小) トートバッグ 防災頭巾カバ ー PPバンドかご (小) PPバンドかご (大) つまみ細工 (髪飾 り) つまみ細工 (コサージュ) (伊豆田方分校) カッティングボードⅡ キーホルダー ひのきチップ コースターⅡ
	<農作物・園芸品> (本校) ブロッコリー プチヴェール 落花生 なす ミニトマト ピーマン 玉ねぎ ダイコン (愛鷹分校) にんにく にんにくの芽 いちご 小松菜 チンゲン菜 水菜 ダイ コン 白菜 インゲン じゃがいも サトイモ ベビーリーフ 二十 日大根 ミニ大根 ほうれんそう ねぎ サラダ春菊 かぶ オクラ なす ビーツ ピーマン ブロッコリー 花苗 (マリーゴールド) 枝 豆 エンサイ (空心菜) (伊豆田方分校) 小松菜 水菜 トマト ダイコン 白菜 インゲン じゃがいも パ プリカ ズッキーニ サツマイモ サトイモ
	<陶芸品> (本校) 皿 (大、中、小) 深皿 さんま皿 そばちょこ フリーカップ (大、 小) 箸置き コーヒーカップ (伊豆田方分校) 小皿 (12 cm、15 cm) 大皿 小皿 (B級品)

	① 売払金額	913,280 円	② 前年度との差額	△183,370 円
令和6年度	<手芸品・工作物> (本校) ポチ袋 ミニバスケット ハニーバスケット 商品短冊 ウッドボックス ティッシュボックス ミニベンチ 長ベンチ 富士山マグネット (大) A4バッグ プチトートバッグ ビッグバッグ くるみボタンヘアゴム 大小くるみボタンヘアゴム ポーチ ティッシュケース ハンカチ ガーゼハンカチ (愛鷹分校) 巾着袋 (大、中、小) 布製小物 (大、中、小) 布製ケース (中) 布製バッグ (中) ティッシュケース (大、小) おはし入れ (小) トートバッグ チラシ・フライヤー (A4片面モノクロ、A4片面カラー、A4両面モノクロ/カラー) 輪転機印刷 (A4片面) (伊豆田方分校) カッティングボード 木製マグネット 木製マグネット (2個セット) 木製キーホルダー 木製キーホルダー (2個セット) ひのきチップ ペンスタンド (小) コースター			
	<農作物・園芸品> (本校) ブロッコリー プチヴェール 生落花生 なす ミニトマト ピーマン 玉ねぎ ダイコン (愛鷹分校) ほうれん草 小松菜 にんじん 水菜 なす ピーマン かぶ ミニトマト スナップエンドウ レタス 玉ねぎ にんにく ダイコン ブロッコリー カリフラワー 白菜 (伊豆田方分校) サトイモ ズッキーニ じゃがいも オクラ インゲン ダイコン さつまいも 小松菜 にんじん ほうれん草 なす かぶ ブロッコリー			
	<陶芸品> (本校) 皿 (大、中、小) 深皿 さんま皿 そばちょこ フリーカップ (大、小) 箸置き マグカップ ボウル皿 (伊豆田方分校) 小皿 (12 cm、15 cm) 大皿			
	① 売払金額	1,096,650 円	② 前年度との差額	123,900 円

令和5年度

<手芸品・工作物>

(本校)

ポチ袋 クラフトカード (シンプル、ゴージャス) 祝儀袋 花型コースター ミニバスケット ハニーバスケット 商品短冊 ウッドボックス ティッシュボックス ミニベンチ 長ベンチ 富士山マグネット (大、小) A4バッグ プチトートバッグ ビッグバッグ くるみボタンヘアゴム 大小くるみボタンヘアゴム 巾着袋 ポーチ ポケットティッシュケース

(愛鷹分校)

巾着袋 (大、中、小) 布製小物 (大、中、小) 布製ケース (中) 布製バッグ (大、中) チラシ・フライヤー (A4片面モノクロ、A4片面カラー) 輪転機印刷 (A4片面)

(伊豆田方分校)

カッティングボード 木製マグネット 木製キーホルダー ひのきチップ 富士山箸置き カップスリーブ ペンスタンド (大、小) マルチスタンド

<農作物・園芸品>

(本校)

ブロッコリー プチヴェール 落花生 なす ミニトマト ピーマン 玉ねぎ ダイコン

(愛鷹分校)

ほうれん草 小松菜 にんじん 水菜 なす ピーマン かぶ ミニトマト スナップエンドウ じゃがいも レタス たまねぎ にんにく

(伊豆田方分校)

サトイモ チンゲン菜 ピーマン ブッキーニ じゃがいも キュウリ オクラ ミニトマト インゲン ダイコン さつまいも 小松菜 にんじん ミニ白菜 ほうれん草

<陶芸品>

(本校)

皿 (大、中、小) 深皿 さんま皿 豆皿 そばちょこ 湯のみ コーヒーカップ フリーカップ (大、小) 箸置きセット

(伊豆田方分校)

小皿 (12 cm、15 cm)

① 売払金額	972,750 円	② 前年度との差額	△28,850 円
--------	-----------	-----------	-----------